

《2013 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2013 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日）

委員	吉田 千草	（明治大学）
	阿部 尚子	（清泉女子大学）
	坂元 真澄	（東京都市大学）
	吉井 由希子	（慶応義塾大学）
	高橋 晶子	（早稲田大学）
	鈴木 直子	（明治学院大学）
	佐々木 俊介	（桜美林大学）
	山本 浩二	（東京農業大学）

研究部担当理事校 専修大学

第 1 回 2013 年 4 月 12 日（金）14：50～16：50 於：専修大学

1. 2012 年度研究部決算報告書について
2. 2013 年度研究部予算（案）について
3. 2013 年度研究部活動計画（案）について
4. 特別助成金申請について
5. 2012 年度研究分科会活動報告について
6. 2012 年度研究分科会会計報告について
7. 2012-2013 年度研究分科会刊行物一覧について
8. 2013 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2013 年度部会総会について
10. 研究分科会マニュアル 2013 年度版（案）について
11. 2013 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
12. その他
 - (1)運営委員名簿について
 - (2)研修委員名簿について
 - (3)分科会参加状況について

第 2 回 2013 年 5 月 17 日（金）13：00～14：45 於：専修大学

1. 2013 年度研究部予算（案）について
2. 2013 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 2013 年度研究分科会予算計画について
4. 2013 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
5. その他
 - (1)2013 年度東地区部会運営委員会日程について
 - (2)第 1 回研修分科会について

(3)パブリック・サービス研究分科会のサービス実態調査について

第3回 2013年6月14日(金) 12:05~12:30 於: 國學院大学

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 2013年度研究分科会報告大会の実施スケジュールについて
3. その他
 - (1)研修分科会について
 - (2)研究分科会夏合宿について
 - (3)研究分科会繰越金について
 - (4)運営委員名簿について

第4回 2013年7月12日(金) 15:00 ~ 16:35 於: 清泉女子大学

1. 2013年度研究分科会報告大会について
2. 2013年度研究分科会夏期合宿(集中研究会)実施計画について
3. 新規研究分科会受付募集の案内について
4. 2014/2015年度研究分科会会員募集について
5. 研究分科会の会計制度について
6. その他
 - (1)2013年度私立大学図書館協会スケジュールについて
 - (2)2013年度東地区部会研究部運営委員会日程について

第5回 2013年10月4日(金) 15:00 ~ 16:45 於: 慶応義塾大学

1. 2013年度研究分科会報告大会について
2. 2013年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議開催について
3. 新規研究分科会受付募集について
4. 研究分科会会計処理及び助成金の改定について
5. その他

第6回 2013年11月8日(金) 13:00~14:15 於: 東京都市大学

1. 2013年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
3. 2013年度研究分科会報告大会について
4. 新規研究分科会受付募集の中間報告について
5. 2014/2015年度研究分科会会員募集の中間報告について
6. 研究分科会会計処理及び助成金の改定について
7. 研究分科会の運営上の諸問題について
8. 2013年度研究分科会報告大会の運営について
9. 2014年度研究講演会の講師と演題について
10. その他
 - (1)報告大会資料作成費について
 - (2)東北・北海道地区担当理事校について

第7回 2013年12月12日(木) 12:40~13:25 於:専修大学

1. 2013年度研究部予算執行状況について
2. 2014年度研究部活動計画(案)について
3. 2014年度研究部予算(案)について
4. 新規研究分科会受付募集について
5. 2014/2015年度研究分科会会員募集について
6. 2014年度研究講演会の講師と演題について
7. 2014年研修分科会会員募集について
8. その他
(1)研究分科会ホームページについて

第8回 2014年3月14日(金) 13:00~15:10 於:桜美林大学

1. 2013年度研究分科会報告大会参加状況及び研究分科会への意見・感想等の集計結果について
2. 2014/2015年度研究分科会会員参加申込状況について
3. 2014年度研修分科会会員参加申込状況について
4. 2013年度研究部活動報告及び中間決算について
5. 2014年度研究部活動計画(案)及び予算(案)について
6. 2013年度研修委員会活動報告について
7. 次期研修委員(2014/2015年度)について
8. 研究分科会マニュアル2014年度版(案)について
9. 2014年度研究部運営委員会日程(案)について
10. 2014年度研究講演会の講師と演題(案)について
11. 2013年度東地区部会役員会(第2回)について
12. 2014年度私立大学図書館協会スケジュール(案)について
13. 研究分科会会計処理及び助成金の改定について
14. その他

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第1回 2013年5月17日(金) 15:00~16:25 於:専修大学

1. 2013年度研究部活動計画(案)及び予算(案)について
2. 2013年度研究分科会活動計画(案)について
3. 2013年度研究分科会報告大会について
4. 研究分科会マニュアル2013年度版について
5. 分科会関連業務分担について
6. 協会ホームページについて
7. 2013年度私立大学図書館協会スケジュールについて
8. 2014-2015年度研究分科会会員更新スケジュールについて
9. 運営上の諸問題について
10. その他
(1)研究分科会代表者名簿について

第2回 2013年11月8日(金) 15:30~17:30 於: 東京都市大学

1. 夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
2. 2013年度研究分科会報告大会について
3. 新規研究分科会受付募集の中間報告について
4. 2014/2015年度研究分科会会員募集の中間報告について
5. 研究分科会会計処理及び助成金の改定について
6. 運営上の諸問題について
7. その他
(1)報告大会資料作成費について
(2)第15回図書館総合展フォーラム出展報告(企画広報研究分科会)

第3回(臨時) 2014年3月14日(金) 15:35~17:00 於: 桜美林大学

1. 2014/2015年度研究分科会会員参加者申込状況について
2. 研究分科会会計処理及び助成金の改定について
3. その他

3. 研究会

2013年度研究分科会報告大会

日時: 2013年12月12日(木) 9:40~16:55

場所: 専修大学 生田キャンパス 9号館2階 92A会議室

参加数: 56大学 84名

発表者: 21名

研究発表:

- | | |
|---|---------------|
| 分類研究分科会 | (9:50~10:35) |
| テーマ: 見えてきた「日本十進分類法」新訂10版 | |
| 発表者: 藤倉 恵一(文教大学) | |
| 西洋古版本研究分科会 | (10:40~11:25) |
| テーマ: 「チョーサー著作集」の魅力 | |
| 発表者: 岡田 勢一郎(共立女子大学) 宮原 柔太郎(日本体育大学) | |
| 和漢古典籍研究分科会 | (11:30~12:15) |
| テーマ: 戯作者たちの書物と薬の広告(専修大学向井信夫文庫所蔵の和本にみえる) | |
| 発表者: 山岸 いづみ(共立女子大学) 七島 美和子(専修大学) | |
| 鶴田 香織(大東文化大学) 植苗 翔(中央大学) | |
| 鈴木 秀子(明治大学) 横山 侑子(立正大学) | |
| パブリック・サービス研究分科会 | (13:30~14:15) |
| テーマ: 始めてみよう! 図書館サービス・スタートブック | |
| ~図書館サービスの現場から~ | |
| 発表者: 太田 優未(立正大学) 奥井 翔太(文化学園大学) | |
| 高島 豊(獨協大学) 田中 優美(駒澤大学) | |
| 富樫 早苗(東海大学) | |
| 企画広報研究分科会 | (14:20~15:05) |

テーマ：ムービーを利用した活動の研究～インパクトと効率性の追求～

発表者：粕川 悠介（成城大学） 島田 貴司（立正大学）

L-ラーニング学習支援システム研究分科会 (15:20～16:05)

テーマ：図書館員のコミュニティツールとしての SNS の可能性
～Twitter、facebook、LINE の試用～

発表者：佐藤 恵（東北学院大学） 澁田 勝（獨協大学）

研修分科会 (16:10～16:55)

テーマ：変わりゆく図書館、変わらなければならない図書館員

発表者：浅田 美和（法政大学） 曾野 正士（明治大学）

紀平 宏子（国際基督教大学）

見 学 専修大学 図書館

4. 研修委員会

研修委員（任期 2012 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）

委員長 山田 雅子（慶応義塾大学）

委 員 藤原 明子（早稲田大学）

南川 真貴子（中央大学）

佐々木 俊介（桜美林大学）

杉谷 美和（明治大学）

金万 智昭（専修大学）

アドバイザー 伊原 千秋（中央大学）

第 1 回 2013 年 4 月 25 日（木）14：30～17：20 於：桜美林大学

1. 2012 年度第 8 回運営委員会（2013/3/15）報告
2. IAAL（図書館支援機構）との打ち合わせ（2013/4/19）報告
3. 2013 年度研修会テーマ案
4. その他
 - (1)研修会について
 - (2)研修委員会の日程

第 2 回 2013 年 5 月 23 日（木）13：30～16：00 於：早稲田大学

1. IAAL（図書館支援機構）活動紹介
2. 2013 年度研修会テーマ検討
3. その他
 - (1)議事録送付手順の確認
 - (2)研修委員会の日程

第3回 2013年6月19日(水) 14:30~17:00 於:慶應義塾大学

1. 2013年度研修会 検討
 - (1) 2013/5/17 IAAL(図書館支援機構)との打合せ報告
 - (2) 2013/6/13 講師候補との打合せ報告
 - (3) グループワーク実習検討
 - (4) 講演者検討
2. その他
 - (1) 委員会出欠確認手順の変更
 - (2) 配布資料について
 - (3) 宿題事項
 - (4) 次回研修委員会の日程について

第4回 2013年7月19日(木) 13:30~17:00 於:明治大学

1. 2013年度研修会 検討
 - (1) 2013/7/5 講師候補との打合せ報告
 - (2) グループワーク実習検討
 - (3) その他講演者検討
2. その他
 - (1) テーマ案の検討
 - (2) 今後の流れ
 - (3) 次回研修委員会の日程について

第5回 2013年8月26日(月) 14:00~17:00 於:中央大学

1. 2013年度研修会 検討
 - (1) 講演者依頼の報告
 - (2) 「開催通知」検討
 - (3) 「ワークショップ」検討
 - (4) 今後のスケジュール
2. その他
 - (1) 次回研修委員会の日程について

第6回 2013年9月25日(水) 14:00~17:20 於:桜美林大学

1. 2013年度研修会 検討
 - (1) 申し込み状況について
 - (2) ワークショップ検討
 - (3) 研修会当日の役割分担
 - (4) 書類準備
 - (5) 研修会当日までのスケジュールについて
 - (6) 講演者依頼状 内容確認
 - (7) 研修会参加に関するご案内
 - (8) ポスター展示について

2. その他

- (1)講師謝礼について
- (2)記録・撮影について
- (3)次回研修委員会の日程について

第7回 2013年10月10日(木) 14:00~18:30 於:桜美林大学

1. 2013年度研修会 検討

- (1)受講者の調整
- (2)参加者宛「研修参加のご連絡」
- (3)経費関連
- (4)ワークショップ検討
- (5)キャンパスツアー
- (6)学生の役割
- (7)事前アンケートについて
- (8)ポスター展示について

2. その他

- (1)懇親会費について
- (2)スケジュールについて
- (3)次回研修委員会の日程について

第8回 2013年11月5日(火) 14:00~17:30 於:桜美林大学

1. 2013年度研修会 検討

- (1)参加者関連
- (2)経費関連
- (3)当日スケジュール
- (4)懇親会
- (5)講演者からの回答確認
- (6)ヒアリングシートの講演者への報告
- (7)ポスター展示
- (8)ワークショップ

2. その他

- (1)ワークショップ等の講評について
- (2)講演中の写真等について
- (3)次回研修委員会の日程について

第9回 2013年12月2日(月) 14:30~17:00 於:中央大学

1. 2013年度研修会 報告

- (1)研修会について
- (2)事後対応について
- (3)ポスター展示について
- (4)作成したPOPについて

(5)振り返りについて

2. その他

- (1)次年度研修会会場校について
- (2)次年度研修委員について
- (3)次回研修委員会の日程について

第10回 2014年3月18日(火) 15:00~17:30 於:慶応義塾大学

1. 研修委員会について

- (1)新旧研修委員 自己紹介
- (2)研修委員会の概要説明
- (3)研修委員会引継ぎ
- (4)次年度研修会の会場と日程について
- (5)研修委員会の開催予定

2. その他

- (1)次回研修委員会の日程について

5. 研修会

期 日:2013年11月14日(木) 15日(金)

場 所:桜美林大学 町田キャンパス 崇貞館6階大会議室H

テーマ:みつけよう・伝えよう大学図書館の魅力

参加者:62大学 64名

内 容:

第1日(11月14日)

基調講演:我が国大学の致命的欠陥~大学図書館は機能しているのか?

桜美林大学 大学院・大学アドミニストレーション研究科教授 諸星 裕

講 演:大学図書館サバイバルのためのブランディング戦略

ーコンセプトメイクからデザインングへー

帝京大学総合教育センター准教授 仁上 幸治

キャンパスツアー(図書館見学含む)

第2日(11月15日)

ワークショップ:桜美林大学図書館の魅力を表現する

株式会社トランスヒューマン 渡邊 崇

6. 研究分科会

次の6研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

(2013年4月1日～2014年3月31日)

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (4) 企画広報研究分科会 |
| (2) パブリック・サービス研究分科会 | (5) 和漢古典籍研究分科会 |
| (3) 西洋古版本研究分科会 | (6) Lーラーニング学習支援システム研究分科会 |

休会：逐次刊行物研究分科会、レファレンス研究分科会、理工学研究分科会、
情報リテラシー教育研究分科会

研究分科会月例担当理事校 清泉女子大学

研究分科会更新担当理事校 東京都市大学

7. 研修分科会

- | | | |
|-----|----------|--------------------------------------|
| 第1回 | 6月5日(水) | 於：専修大学 |
| 第2回 | 7月4日(木) | 於：明治大学 |
| 第3回 | 8月27日(火) | 夏期見学ツアー
(於：国立国会図書館・国立公文書館・慶應義塾大学) |
| 第4回 | 9月26日(木) | 於：東京都市大学 |
| 第5回 | 11月7日(木) | 於：早稲田大学 |
| 第6回 | 12月5日(木) | 於：明治学院大学 |

《2013 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：8名（正会員6名，個人会員2名）

会 員：川上 勝慎（獨協大学） 柴田 保子（東京家政大学）
鈴木 学（日本女子大学） 藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員
上條 庸子（女子栄養大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学） 以上正 ML 会員
小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学） 以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：60名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は、過去2期の研究を継承し、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の「日本十進分類法（NDC）」新訂10版の試案について検証と評価、および必要な提言をすることをメインテーマとし、「その分類、大丈夫ですか？」とする。また、そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間に(1)研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2)主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3)研究成果の発表および総括の3つの期間に分けて活動する。

2013年度は第2期から第3期の活動を行う。

2. 1) 第2期 NDC10版試案の検討

第2期の活動として、前期からの継続課題である「日本十進分類法新訂10版試案の概要」の検討を行った。

試案については、時系列で以下のように公開されている。また試案は『図書館雑誌』のページ構成上、各4ページという制約があるが、日本図書館協会分類委員会ホームページ (<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/187/Default.aspx>) 上では、PDF および HTML で雑誌掲載のものより詳細なものが公開されている。分科会での検討にはこの Web 版を使用した。以下「試案」とはこの Web 版のことを指す。

- ・ その7 8類「言語」の部 図書館雑誌 106(7), 2012.7, p.488-491.
- ・ その8 4類「自然科学」の部 図書館雑誌 107(1), 2013.1, p.40-43.
- ・ その9 9類「文学」の部 図書館雑誌 107(3), 2013.3, p.178-181.

- ・ その10 6類「産業」の部 図書館雑誌 107(10), 2013.10, p.644-647.
 - ・ その11 「情報学」の部 図書館雑誌 108(1), 2014.1 p.38-41. (※)
- ※ ただし、「情報学」の部は他の各類と異なり試案説明会での公表が先行し、続いて Web 版、雑誌掲載版の順に公開された。また、分科会では特例として公開前の試案を対象に検討を行った（後述）。

これら検討の結果を、NDC 全体に関わる課題と各類改訂試案、「解説」個々に対する課題とに整理し、2014年2月1日付「日本十進分類法新訂10版試案に対する意見：4類・6類・8類・9類試案および情報学関連領域について」として日本図書館協会分類委員会に提出した。また、分類委員会より意見書への回答として、同3月4日付「日本十進分類法新訂10版試案に対する意見（回答）」を受理した。

今次の意見書で、10版改訂をする分類委員会に対する意見書は4回目となるが、これまでの提言の多くが委員会で検討され、10版の構成や内容に反映されるものがいくつかあることが、第2回試案説明会における分類委員長報告の内容から明らかになった。

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第2期の活動に関連してNDC10版改訂試案が既存の出版物の分類にどの程度の影響を及ぼすかを推測するために、2009・2011年度とほぼ同様の手法を用いてNDL-OPAC書誌をサンプルとした実証実験を行った。

2. 3) NDC10版第2回試案説明会への出席

分類委員会は、11月12日（火）に日本図書館協会第2回となるNDC10版の試案説明会を開催した。これは2009年11月に開催されたものの続きであり、それ以降公表された試案の解説が中心であった。

分科会は同日午前中に日本図書館協会月例会を開催し、続いて午後説明会に出席した。この会にはML会員・個人会員含め分科会全員参加をし、質疑応答や懇親会の席上で多くの意見を分類委員に提示した。

2. 3) 会場記録および活動概要

2013年 4月19日（金） 文教大学（越谷）

- 1) 日本十進分類法新訂10版試案の検討 8類

5月10日（金） 獨協大学

- 1) 日本十進分類法新訂10版試案の検討 4類

6月21日（金） 日本女子大学（西生田）

- 1) 日本十進分類法新訂10版試案の検討 9類
- 2) 夏期研究合宿会場について

7月12日（金） 東京家政大学（板橋）

- 1) NDC9版改訂に関する記録文献の検討（「資料組織化研究」より）
- 2) 夏期研究合宿の内容について

9月4日（水）～6日（金） 道の駅ろまんちっく村（栃木県宇都宮市）

- 1) 日本十進分類法新訂10版試案の検証 4, 8, 9類
- 2) 日本十進分類法新訂10版試案の検討 6類

9月20日（金） 獨協大学

- 1) 日本十進分類法新訂10版試案の検討 6類
- 2) 研究報告大会について

- 10月18日(金) 東京家政大学(板橋)
- 1) 日本十進分類法新訂10版試案の検討 情報学
- 2013年 11月12日(火) 日本図書館協会会館
- 1) 各分類試案の問題点整理
 - 2) 日本十進分類法第2回試案説明会
- 12月6日(金) 日本女子大学(目白)
- 1) 研究報告大会について
 - 2) 試案説明会について
- 2014年 2月21日(金) 女子栄養大学(駒込)
- 1) 研究報告大会および報告論文について
 - 2) 分類委員会への意見書について
- 3月7日(金) 喫茶室ルノアール神田南口駅前店マイ・スペース
- 1) 意見書への回答について
 - 2) 総括

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2013 (第23回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ(現・情報組織化研究グループ)により始められたTP&Dフォーラムは、第2回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2013年度は横浜で開催され、分科会からは藤倉・川上・小林の3名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献であるといえる。

なお、2014年度は9月5・6日に横浜にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007年度より、分類研究分科会を代表して藤倉がNDCの編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりともNDCの編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

今期は特に、6類と情報学の試案について、分科会側の検討スケジュールの事情と、委員会側の刊行計画との兼ね合いから、公表前の試案を特例として提供を受けることができた。結果として、6類試案は雑誌校正段階で、情報学試案は公表前に分科会が指摘した問題点のいくつかに対応したものが発表された。

(文責・藤倉恵一)

2. パブリック・サービス研究分科会

代表者：太田 優未（立正大学）

会員数：6校6名

会 員：田中 優美（駒澤大学）

鴨下 歩美（大正大学）

富樫 早苗（東海大学）

高島 豊（獨協大学）

奥井 翔太（文化学園大学）

太田 優未（立正大学）

年会費：8,000円（正会員）

例会開催回数：12回（夏期研究合宿含む）

延べ参加者数：71人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/public/>

活動

（1）基本テーマ

国内外の利用者サービスについての情報を収集し、知識の共有や現状把握に努める。また、来館・非来館に関わらず、様々な利用形態を想定した上で、利用者満足度の高いサービスについて調査・研究を進めていく。

利用者が満足することはもちろん、提供する側の図書館員やそれらに関わるすべての人たちが成長できるようなパブリック・サービスを示したい。

（2）活動の概要

今年度前半は、テーマ「始めてみよう！図書館サービス・スタートブック」のもと、研究成果として2014年3月のスタートブック発行に向け、特色ある取り組みを行っている図書館を対象にアンケート用紙によるサービス事例調査の実施、図書館見学を行った。夏期研究合宿以降は、スタートブックの構成・レイアウトの検討を行い、サービス事例調査回答のまとめ・ページ作成、見学レポート等の作成、まとめ・提言の執筆作業を行った。

①グループ研究

今期は「始めてみよう！図書館サービス・スタートブック」というテーマのもと、これから新しくサービスを始めるとき、これまでのサービスを改善したいときに参考となるハンドブックを作成するための研究活動を行った。

②図書館見学・講義

国内外の先進的な事例、それぞれの図書館における特徴的な要素等を抽出して、一目でわかる事例・提言集としてスタートブックをまとめることを目標に、先進的な取り組みを行っている図書館の見学やそれらの活動に携わる教職員からお話を伺った。

資料

（1）月例会テーマ

4月例会：4月19日（金）10：00～17：00 東海大学（代々木キャンパス）

- ①東海大学付属図書館代々木図書館見学
- ②スタートブック掲載候補大学、見学候補大学の選定
- ③スタートブック作成のためのサービス事例調査の内容検討

5月例会：5月24日（金）10：00～17：00 東京女子大学、武蔵野プレイス

- ①東京女子大学図書館見学
- ②武蔵野プレイス見学
- ③スタートブック見学候補大学の再検討、今後のスケジュール確認

6月例会：6月27日（木）10：00～17：00 上智大学（四谷キャンパス）

- ①サービス事例調査票発送作業
- ②スタートブック構成検討

7月例会：7月25日（木）10：00～17：00 帝京大学メディアライブラリーセンター、
明治大学和泉図書館、芝浦工業大学豊洲図書館

- ①帝京大学メディアライブラリーセンター見学
- ②明治大学和泉図書館見学
- ③芝浦工業大学豊洲図書館見学

夏期研究合宿：9月2日（月）～4日（水） 学校法人文化学園 文化軽井沢山荘

- ①スタートブック全体の方向性や具体的なレイアウトの検討
- ②「スタートブックの方向性や分析に対する提言」

慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

- ③スタートブックの構成・詳細レイアウトの雛形作成、担当者の決定
- ④研究報告大会用提出書類の作成

9月例会：9月24日（火）10：00～17：00 和光大学附属梅根記念図書・情報館、
相模女子大学附属図書館

- ①和光大学附属梅根記念図書・情報館見学
- ②相模女子大学附属図書館見学

10月例会：10月25日（金）10：00～17：00 東海大学（代々木キャンパス）

- ①サービス事例調査回答報告、見学レポート、まとめ・提言ページの構成検討
- ②今後のスケジュール確認

11月例会：11月11日（月）10：00～17：00 文化学園大学（新都心キャンパス）

- ①研究報告大会配布用資料の作成
- ②サービス事例調査報告ページの校正方法検討
- ③見学レポート、まとめ・提言ページの構成検討

12月例会：12月5日（木）10：00～17：00 立正大学（大崎キャンパス）

- ①次期募集要項の作成
- ②研究報告大会発表用資料の作成、発表練習
- ③サービス事例調査回答報告、見学レポート、まとめ・提言以外の役割分担

1 月例会：1 月 10 日（金）10：00～17：00 獨協大学

- ①サービス事例調査報告ページ校正作業の進捗報告
- ②スタートブック校正作業

2 月例会：2 月 25 日（火）10：30～17：30 立正大学（大崎キャンパス）

- ①スタートブック校正作業

3 月例会：3 月 13 日（木）13：00～17：00 駒澤大学（駒沢キャンパス）

- ①駒澤大学図書館見学
- ②スタートブック発送作業

（2）刊行物及び事業

『はじめてみよう！図書館サービス・スタートブック』（2014 年 3 月 31 日発行）

3. 西洋古版本研究分科会

代表者：岡田勢一郎（共立女子大学）

会員数：6名

会員：岡田勢一郎（共立女子大学）
宮原柔太郎（日本体育大学）
タイムソンジョウナス（早稲田大学）
松谷有美子（清泉女子大学）
児玉千尋（成蹊大学）
（中央大学）

年会費：1,500円

例会開催回数：12回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加人数：64名

研究分科会ホームページ URL：http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early_p_book/

活動

1) 基本テーマ

- ① 西洋古版本に関する書誌学的研究（書誌学的知識の習得も含む）
- ② 図書館で西洋古典資料を扱う際に必要な知識の習得

2) 活動の概要

西洋古版本に関する文献を読み基礎知識習得に努めるとともに、講師の指導を受け、貴重書の特徴の理解を深めた。会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いて資料整理の実践を行った。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会

4月11日（木） 共立女子大学 参加者5名

- ① 研究テーマについて
- ② 新規参加会員の紹介
- ③ 図書館見学

5月例会

5月27日（月） 中央大学 参加者6名

- ① 書誌比較【チャーサー著作集】
- ② 事務連絡
- ③ 図書館見学

6月例会

6月28日（金） 共立女子大学 参加者6名

- ① 貴重書サービスの基礎（閲覧・撮影・展示・I P M）
- ② 事務連絡（夏期合宿）
- ③ 図書館見学

7月例会

7月9日（火） 早稲田大学 参加者6名

- ① 印刷本の目録記述（目録・用語・素材・構造・透かし・図版）
- ② 事務連絡
- ③ 図書館見学

8月例会

8月1日（木）～2日（金）（敷島館 参加者5名）

- ・夏期合宿（発表テーマの骨子作成と「書誌学」の知識の習得）

8月例会（臨時）

8月29日（木） 共立女子大学 参加者4名

- ① 羽ペン製作
- ② 事務連絡

9月例会

9月5日（木） 共立女子大学 参加者5名

- ① 写本彩色と字体の練習（羽ペン）
- ② 事務連絡

10月例会

10月9日（水） 日本体育大学 参加者5名

- ① 「研究テーマ」発表準備
- ② テーマ毎の役割分担

11月例会

11月11日（月） 中央大学 参加者5名

- ① 「研究テーマ」発表準備
- ② テーマ毎の精査

11月例会（臨時）

11月27日（水） 日本体育大学 参加者5名

- ① 発表内容の精査

1 月例会

1 月 14 日（火） 共立女子大学 参加者 6 名

- ① 世界の三大美書
- ② 報告大会の反省
- ③ 蔵書票の見学

3 月例会

3 月 13 日（木）参加者 6 名

- ① 展示会见学（「ラファエル前派展」/森アートセンターギャラリー）
- ② 今期活動内容総括

2) 刊行物及び事業

なし

4. 企画広報研究分科会

代表者：島田 貴司（立正大学）

会員数：7名（正会員4名、個人MLネット会員1名、
オブザーバーMLネット会員2名）

会 員：間島 一美（昭和女子大学／正会員）
粕川 悠介（成城大学／正会員）
立木 加奈子（帝京大学／正会員）
島田 貴司（立正大学／正会員）
高木 彩（白百合女子大学／個人MLネット会員）
小曾川 真貴（愛知県犬山市立図書館／オブザーバーMLネット会員）
寺島 陽子（奈良女子大学／オブザーバーMLネット会員）

年会費：2,000円（正会員）、1,000円（正会員以外）

例会開催回数：11回（夏期集中研究会、図書館総合展フォーラム含む）

延べ参加者数：46人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kikaku/index.htm>

活動

1) 基本テーマ

図書館の企画・広報方法論の研究：専任職員の削減と外部委託の拡大という現場状況のもとで大学図書館員という職種の社会的評価の向上を目指し、業務改善に直結する企画広報力の増進を図るために、実業界で使われている方法論に関する実践的共同研究を行う。

2) 活動の概要

今年度は、「ムービーを使った図書館広報の可能性」というテーマで研究を進めながら、第15回図書館総合展のフォーラムに参加した。フォーラムでは、研究テーマであるムービーも活用しつつ30年を経過した企画広報研究分科会の活動を振り返ると共に、OBGによる企画広報に関する講演、更には私立大学図書館協会東地区部会研究部の研究分科会活動を図書館内で勤務する様々な立場の方々に知ってもらうためのPRの場として、各分科会のPRムービーを紹介した。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会：日程：4月25日（木）13：00～17：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

ムービーを使った効果的なPR方法（作成編）

- ・ムービー作成役割分担／ムービー作成
- ・図書館総合展フォーラム内容検討

5月例会：日程：5月30日（木）13：00～17：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

ムービーを使った効果的なPR方法（作成編2）

- ・ムービー作成方法説明・作成
- ・図書館総合展フォーラム内容検討

6月例会：日程：6月13日（木）13：00～17：00

場所：成城大学図書館 4階会議室

ムービーを使った効果的なPR方法（作成編3）

- ・ムービー作成役割分担再確認、報告大会の流れ決定
- ・図書館総合展フォーラム検討状況報告・確認

7月例会：日程：7月9日（火）13：00～17：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

ムービーを使った効果的なPR方法（作成編4）

- ・各自担当ムービー作成
- ・図書館総合展フォーラム検討状況報告・確認

夏期集中研究会：

日程：9月10日（火）～11日（水）

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

ムービーの披露及び修正作業

- ・各自担当ムービー作成
- ・各自作成したムービーの披露と批評
- ・各自担当ムービー修正

10月例会：日程：10月15日（火）10：00～17：00

場所：昭和女子大学 80年館 図書館4階 グループ研究室

図書館総合展フォーラム準備

- ・フォーラム準備状況確認・予定確認
- ・各自作成ムービー視聴・動作確認
- ・フォーラム準備（展示資料、配布資料の確認・準備）

第15回図書館総合展 フォーラム出展：

日程：10月29日（火）10：00～11：30

場所：パシフィコ横浜 第9会場（E204）

図書館サバイバル用「万能道具箱」の今

－企画広報ツールの研究開発30年の到達点と課題－

コーディネーター：仁上幸治氏（帝京大学総合教育センター准教授）

スピーカー：太田香保氏（松岡正剛事務所チーフマネージャー）

スピーカー：山田かおり氏

（嘉悦大学情報メディアセンター図書グループ長）

スピーカー：中嶋康氏

（帝京大学メディアライブラリーセンター
グループリーダー）

プレゼンター：島田貴司（立正大学情報メディアセンター）

11月例会：日程：11月19日（火）9：00～16：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

フォーラム総括及び研究発表大会に向けた準備

- ・フォーラム総括及び今後の作業確認
- ・研究発表大会に向けた予定確認

- ・研究発表大会流れ確認
- ・ムービー修正、スピーチ内容検討

12月例会：日程：12月6日（金）9：00～16：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

研究報告大会リハーサル

- ・研究報告大会リハーサルと修正点検証
- ・ムービー修正、スピーチ内容修正
- ・研究報告大会最終リハーサル

研究報告大会：日程：12月12日（木）14：20～15：05

場所：専修大学 生田キャンパス 9号館2階92A会議室

ムービーを利用した活動の研究

ーインパクトと効率性の追求ー

写真や動画に音楽やナレーションを組合せてムービーを作るデジタル・ストーリー・テリングという手法は、米国大学では論文の代わりとして一部認められている。そして、現在、誰もがスマートフォン等で写真や動画を撮り、編集できる。これを図書館で活用することでどのような効果があるか。世界的に動画を活用した授業が注目されている中、身近な機材で行った研究結果を報告した。

1月例会：日程：1月23日（木）13：00～17：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

研究報告大会総括・報告書読合せ

- ・研究報告大会総括・残件確認
- ・報告書読合せ
- ・フォーラム後片付け・残業務確認

3月例会：日程：3月12日（水）13：00～17：00

場所：成城大学図書館 4階会議室

今期研究分科会活動総括

- ・2013年度会計報告
- ・今期研究分科会活動総括
- ・次期研究分科会への引継ぎ内容確認
- ・成城大学ラーニングcommons見学

2) 刊行物及び事業 特になし

5. 和漢古典籍研究分科会

代表者： 鶴田香織（大東文化大学）

会員数： 6校6名 + 講師1名

会 員： 鶴田 香織（大東文化大学） 山岸いづみ（共立女子大学）
植苗 翔（中央大学） 鈴木 秀子（明治大学）
七島美和子（専修大学） 横山 侑子（立正大学）
高橋良政講師（元日本大学）

年会費： 2,000 円

例会開催日数： 12 回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加者数： 78 名

研究分科会ホームページURL：

<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/index.html>

活動

(1) 基本テーマ

日本や中国、朝鮮半島で刊行された和漢古典籍について大学図書館員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法を習得する。また、書物から情報をくみ取り、考察、分析し、出版史や学術の淵源、書物の変転を調査し、古典籍全般の知識を深めている。

(2) 活動の概要

- ・研究報告大会に向けての準備を行った。分科会で和本に触れる中、江戸の読本の中に薬や雑貨の広告が載っていることに気づき、それらが書誌作成に役立てることができないかと考え、専修大学所蔵「向井信夫文庫」を対象とし調査を試みた。
- ・会場校所蔵の古典籍について、実際に調書を作成し、適宜講師の批評・指導を受けた。
- ・会場校の図書館で古典籍の見学をし、各大学の装備方法、保存方法などについて見聞を広めた。

資料

(1) 月例会テーマ

第1回：2013年4月12日（金） 於共立女子大学図書館・参加7名

- ① 研究報告大会発表内容検討
- ② 調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。
- ③ 会場校図書館見学

第2回：2013年5月10日（金） 於専修大学図書館・参加7名

- ① 「向井信夫文庫」の広告調査
（対象とする作家の著作物の抽出。表紙・刊記・広告の撮影）
- ② 会場校図書館見学

第3回：2013年6月27日（木） 於専修大学図書館・参加7名

- ① 夏期集中研究会の日程・内容確認
- ② 「向井信夫文庫」の広告調査
（対象とする作家の著作物の抽出。表紙・刊記・広告の撮影・データ入力）

第4回：2013年7月12日（金） 於中央大学図書館・参加6名

① 夏期集中研究会の日程等調整

② 研究報告大会発表準備

夏期集中研究会第1日目：2013年8月27日（火） 於専修大学図書館・参加7名

① 「向井信夫文庫」広告調査

② 研究報告大会発表準備

夏期集中研究会第2日目：2013年8月28日（水） 於専修大学図書館・参加7名

① 「向井信夫文庫」広告調査

② 研究報告大会発表準備

第5回：2013年10月3日（木） 於専修大学図書館・参加7名

① 研究報告大会発表準備（総論・各論班に分かれ内容検討）

第6回：2013年10月11日（金） 於専修大学図書館・参加6名

① 研究報告大会発表準備（発表原稿の作成検討）

第7回：2013年11月13日（水） 於専修大学図書館・参加6名

① 研究報告大会発表準備（発表原稿の作成検討）

第8回：2013年12月5日（木） 於専修大学図書館・参加7名

① 研究報告大会発表準備（発表原稿の確認および予行演習）

第9回：2014年1月24日（金） 於共立女子大学図書館・参加5名

① 研究報告大会発表要旨原稿の校正

② 会場校所蔵貴重図書説明・見学

第10回：2014年3月17日（月） 於立正大学古書資料館・参加6名

① 古書資料館見学

② 和装本総論

(2) 刊行物及び事業

なし

6. Lーラーニング学習支援システム研究分科会

代表者：小田切夕子（麻布大学）

会員数：7校7名

会 員：[正会員]

小田切夕子（麻布大学）

金子和代（早稲田大学）

高橋泰行（大正大学）

村上明子（桐蔭横浜大学）[2013.10～]

[ML ネット会員]

佐藤恵（東北学院大学）

澁田勝（獨協大学）

[個人会員]

小山信弥（関東学院大学）

年会費：0円

例会開催回数：2回(夏期集中研究を含む)

延べ参加者数：8名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/lls/>

活動

1) 基本テーマ

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築並びに評価、分析

2) 活動の概要

2012/2013期は、SNS を利用したリポジトリ構築支援コンテンツの共同制作作業をとおして、図書館員のコミュニティツールとしての SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の可能性についての議論と検証作業を行った。活動は、集合型の定例会以外に分科会の Facebook を活用して行った。

2013年度は、高校生や大学生などの若年層のユーザーが急増している LINE に注目し、システムの仕組みや、使用方法、広報ツールとしての特性などの調査結果を踏まえ、分科会会員自身が実際に LINE のユーザー登録を行い、LINE のコミュニティツールとしての可能性を探った。最後のまとめとして、この 2012/2013 期において検証した Twitter、Facebook、LINE について、それぞれの特徴や機能に基づいて、図書館員のコミュニティツールとしての特性を分析した。

資料

1) 月例会テーマ

- ・ 第1回例会

2013年6月10日（月）13:30-17:00 東京文化会館

- 1.代表者会議の報告
- 2.今期の研究計画について
- 3.FB 及び Twitter の運用方法
- 4.報告大会について
- 5.夏期合宿（集中研究）について

- ・ 夏期集中研究会

2013年8月8日（木）9:00-19:00 機械振興会館

- 1.LINE に関する調査(発表)
- 2.LINE 利用によるコミュニティ形成（討議・実装実験）

3.コミュニティーツールとしての LINE について

4.報告大会準備について

2) 刊行物及び事業

- ・ Facebook : リポジトリ WG (私図協 Lラーニング分科会)
- ・ TakaQ による Lラーニング <http://www.l-learning.jp/takaq/>
- ・ Xoops による Lラーニング <http://www.l-learning.jp/xoops/>
- ・ Moodle による Lラーニング <http://www.l-learning.jp/moodle/>
- ・ 携帯電話による Lラーニング <http://l-learning.jp/i/>
- ・ 大学図書館員のためのリポジトリ <http://www.l-learning.jp/xoonips/>

《2013 年度研修分科会活動報告》

研修分科会

代表者：平野 光男（研究部担当理事校：専修大学）

会員数：26 名

会 員：高橋 淑子(青山学院大学) 風間 邦子(神田外語大学)
紀平 宏子(国際基督教大学) 金安 麻恵子(相模女子大学)
瀬戸 笑美子(実践女子大学) 甲田 さと美(城西大学)
稲垣 善之(成城大学) 山瑞 尚美(聖マリアンナ医科大学)
森 彩衣(専修大学) 針谷 美穂子(東京都市大学)
山岸 佳愛(桐朋学園大学) 福田 奈那(東洋学園大学)
山本 美智恵(日本体育大学) 八木 菜穂子(日本大学)
山口 真(日本大学) 浅田 美和(法政大学)
大谷 公亮(明治学院大学) 篠 麻子(明治大学)
曾野 正士(明治大学) 雲居 志帆(和光大学)
常盤 哲平(文教大学) 蔵本 祐史(文教大学)
三屋 綾子(敬和学園大学) 小室 沙絵(聖マリアンナ医科大学)
藤岡 梨紗(立教大学) 岡 瑠子(清泉女子大学)

年会費：5,000 円

開催回数：6 回

延べ参加者数：149 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/e1-ken-b/>

活動

1) 基本テーマ

発展し続ける情報化社会の中で大学図書館職員にとって必須の基本的知識を実態に即した技術として習得することをテーマに、既存の研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度に新設された。

研修内容と目的概略

- ① 大学の中で、図書館員の役割を理解できるようにする。
- ② 利用者に必要な情報を組織的かつ迅速に対応できるようにする。
- ③ 情報化社会の最新情報に到達し実務に反映できるようにする。

2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

資料

1) 月例会テーマ

第1回 2013年6月5日(水) 専修大学

講演： 機関リポジトリを知る

(東京歯科大学：阿部 潤也 氏)

実習： 図書館員のためのリポジトリ紹介と登録実習

(L-ラーニング学習支援システム研究分科会代表：小田切 夕子 氏)

第2回 2013年7月4日(木) 明治大学

課題： アウトソーシング調査

講演： 図書館業務のアウトソーシングを考える

(立教大学：牛崎 進 氏)

グループ討議： アウトソーシングについて

見学： 明治大学中央図書館・米沢嘉博記念図書館

第3回 2013年8月27日(火) 夏季見学ツアー

見学先： 国立国会図書館

国立公文書館

慶應義塾大学三田メディアセンター

第4回 2013年9月26日(木) 東京都市大学

課題： 研修分科会中間レポート

視聴： 図書館戦争(アニメ映画版)

発表： 研修分科会中間報告発表

研究分科会報告大会打合せ

第5回 2013年11月7日(木) 早稲田大学

課題： 共同製作 分筆

講演： ①RDAにみるこれからの図書館像

(NPO法人大学図書館支援機構：蟹瀬 智弘 氏)

②ゼロからはじめたRDA紀行

(東京外国語大学附属図書館：村上 遥 氏)

見学： 早稲田大学中央図書館

第6回 2013年12月5日(木) 明治学院大学

課題： 提出された第5回課題のレポートを全て読み、共同製作の小冊子のタイトル案を考える。

講演： FD活動と協働できる情報リテラシー教育を考える

ーラーニング commons の事例を含めー

(同志社大学企画課長・社会学部嘱託講師：井上 真琴 氏)

グループ作業： 共同製作分担作業・研究報告大会準備

研究分科会報告大会での活動報告

2013年12月12日(木) 専修大学

報告者： 浅田 美和(法政大学)

曾野 正士(明治大学)

紀平 宏子(国際基督教大学)

2) 刊行物及び事業

「電子リソースはじめの一步 ～スマート化する資料～」

http://jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/2013_product.pdf

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	分類 研究分科会	パブリック・サービス 研究分科会	西洋古版本 研究分科会	企画広報 研究分科会	和漢古典籍 研究分科会	ラーニング学習 支援システム 研究分科会
書名 又は 誌名	なし	はじめてみよう！ 図書館サービス・ スタートブック	なし	なし	なし	なし
刊行 頻度		2012-2013年度のみ				
価格		無料				
発行 部数		100部				
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫		分科会会員、分科 会会員所属機関、 分科会協力機関な どに配布。 在庫は僅少。				
発行 目的 ・ 主な 内容		分科会の研究報告 として、2012-2013 年度のテーマよ り、これから新し くサービスを始め るときやこれまでの サービスを改善 したいときに参考 となるハンドブッ クを作成。				
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定		今後の刊行予定に ついては未定。				

《2013 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 専修大学図書館

【2013 年度 4 月から担当】

月例会担当理事校 清泉女子大学附属図書館

【2013 年度 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況(2013 年 2 月 1 日現予定含)

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
分類 研究分科会	10	9 月 4 日～ 9 月 6 日（合宿）
パブリック・サービス 研究分科会	11	9 月 2 日～ 9 月 4 日（合宿）
西洋古版本 研究分科会	10	8 月 1 日～ 8 月 2 日（合宿）
企画広報 研究分科会	9	9 月 10 日・11 日（集中研究会）
和漢古典籍 研究分科会	9	8 月 27 日・28 日（集中研究会）
L-ラーニング [®] 学習支援システム 研究分科会	1(4)	8 月 8 日（集中研究会）

*月例会開催数の（）は ML 及び SNS 開催

*夏期合宿・集中研究会内訳（【】は前年度）

夏期合宿 3【3】、集中研究会 3【3】、実施せず 0【0】

2. 2013 年度中の動き

本年度の研究分科会は 6 研究分科会が活動し、休会は 4 研究分科会となった。

研究分科会の会員異動は 2 件(中途入会 1、退会 1)であった。各研究分科会の会員数は 6～7 名、月例会の回数は、それぞれ年間 5～11 回開催された。各研究分科会の会員数、1 年間の月例会回数は、ともに前年度とほぼ同数となった。夏期合宿(または集中研究会)は、全ての 6 研究分科会が実施し、研究成果の集大成となる報告大会に向け研究作業に集中した。

報告大会は 12 月 12 日に開催され、6 研究分科会が 2012-2013 年度の、1 研修分科会が 2013 年度の活動を報告した。発表関係者、役員・スタッフも含め参加大学は 65 大学、参加者は 128 名であった。参加者のアンケートによると、活動報告への意見・感想は概ね好評であり、図書館員としてのスキルを研鑽する意欲に繋がったとの声が多数あった。

3. 今後の課題

これまで、図書館は大学の研究・教育活動の充実に密接に関わってきた。今後も業務内容等の変遷はあるものの、図書館の使命が研究・教育活動の支援にあることは勿論、その役割は益々大きくなってきている。従来の方科会での研究活動に加え、大学図書館が直面している新しい問題解決に向けた課題の研究も必要であるとする。

他大学との情報交換や共同研究活動を通じて、それぞれの図書館が直面する課題解決となる新たな取り組みなどに繋がる活動となることを期待する。

東地区のそれぞれの大学図書館が利用者に対し一定のサービスを提供するため、大学図書館で提供すべきサービスの標準化も必要であるとする。分科会での情報交換や共同研究で習得したスキルが現場に還元され、より一層大学の研究・教育活動に貢献できることを望む。

《2014／2015 年度研究分科会・研修分科会会員の更新結果(報告)》

研究部担当理事校 専修大学図書館
分科会更新担当理事校 東京都市大学図書館

1. 更新状況

(2014年3月31日現在)

分科会名	更新前		更新後		増減	備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数		
1 分類	7(6)	7	7(5)	7	0	
2 逐次刊行物	0	0	0	0	0	2012/2013年度休会
3 レファレンス	2	2	3(1)	3	0	2012/2013年度休会
4 理工学	0	0	0	0	0	2013年度廃会
5 パブリック・サービス	6	6	6(0)	6	0	
6 西洋古版本	4(2)	4	8(4)	8	5	
7 企画広報	6	6	5(0)	5	▲1	
8 和漢古典籍	6(2)	6	5(0)	5	▲1	
9 情報リテラシー教育	0	0	0	0	0	2013年度廃会
10 Lラーニング学習支援システム	7(2)	5	0(0)	0	▲7	2014年度休会予定
11 研修分科会(単年度更新)	26	26	10	10	▲16	第1次締切分集計

①参加諾否後の集計：37 機関 44 名参加※ (2014年3月31日現在) ※それぞれ数は延数

②更新後参加人数欄の()内は継続会員数

2. 研究分科会会員更新経過

2013年

4月12日(金)

- ・第1回運営委員会で、分科会更新スケジュールの説明および研修分科会応募状況を報告(研修分科会第2次募集最終承認はメール審議)

5月17日(金)

- ・第1回研究分科会代表者合同会議で、更新スケジュールを説明

7月12日(金)

- ・第4回運営委員会で、新規研究分科会募集と次期研究分科会の活動計画作成依頼が承認

9月11日(水)

- ①加盟大学図書館長宛「新規研究分科会受付募集の案内について(お願い)」送付
- ②研究分科会代表者宛「2014/2015年度研究分科会会員募集要項の原稿提出について

(依頼)」と分科会統合・名称変更の届出依頼をメールで配信

※①、②とも提出期限は12月6日(金)

10月4日(金)

- ・第5回運営委員会で新規分科会受付募集について中間報告(応募なし)

11月8日(金)

- ・第6回運営委員会で新規研究分科会応募状況(応募なし)と研究分科会会員募集要項の原稿提出状況(受領なし)を中間報告

12月6日(金)

- ・研究分科会の活動計画受領(休会中分科会を含む8分科会)、新規分科会は応募なし

12月12日(木)

- ・第7回運営委員会で、会員募集要項原稿の確認と1月以降の会員更新スケジュールを説明

※会員募集要項は原稿修正、平成26年1月14日校了後運営委員会のメール承認。

- ・分科会研究報告大会にて、会員勧誘のための分科会紹介チラシを配布

※休会中分科会(逐次刊行物研究分科会、レファレンス研究分科会)の投稿も含む。

2014年

1月17日(金)

- ・研究分科会の会員更新書類として下記書類を送付し、次期会員募集を開始

- ①「研究分科会会員の更新について(お願い)」
- ②「2014/2015年度 研究分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
- ③「2014/2015年度 研究分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
- ④「研究分科会会員募集に関する手引き」
- ⑤「2014/2015年度 研究分科会会員募集要項」(8分科会)

※②、③とも提出期限は2月21日(金)

- ・研修分科会の会員更新用として下記書類を送付し、次期会員募集を開始

- ①「研修分科会会員の更新について(お願い)」
- ②「2013年度 研修分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
- ③「2013年度 研修分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
- ④「2013年度 研修分科会会員募集要項」

※②、③とも提出期限は第1次募集2月21日(金)、第2次募集4月11日(金)

2月21日(金)

- ・研究分科会参加申込期限(20校29名:応募者数・延べ数、会員区分なし)、研修分科会第1次参加申込締切(10校10名)

※以降、研究分科会の応募受付を継続することを研究部に確認し、3月28日まで対応

3月3日(月)

- ・研修分科会参加者確定のため参加応募3校3名以上の研究分科会代表者宛に下記書類を送付

- ①「2014/2015年度 研究分科会参加申込書」(個人用)
- ②「研究分科会参加希望者承認の諾否、及びその通知について」

③ 2014-2015 研究分科会参加申込状況

※諾否回答（メール）：3月8日（土）

- ・参加応募3校3名未満の研究分科会代表者宛に下記書類を送付

① 2014-2015 研究分科会応募状況

- ・研修分科会参加者確定のため研究部宛に下記書類を送付

①「2014年度 研修分科会参加申込書」（個人用）

②「研修分科会参加希望者承認の諾否、及びその通知について」

※諾否回答締め切り：3月8日（土）

3月14日（金）

- ・第8回運営委員会で、研究分科会参加者名簿および研修分科会参加者名簿（第1次締切分）を各々提示し、会員募集結果を報告

※研究分科会の追加募集実施を決定

※参加不承認者については、加盟大学図書館長宛通知と理由書を送付することを確認

- ・第3回研究分科会代表者合同会議で、各分科会代表者より「研究分科会参加希望者承認の諾否」を受領

3月31日（月）

- ・運営委員に参加者名簿を送付し、メール審議により承認。

- ・研究分科会代表者に参加者名簿をメールにて送付

- ・分科会参加申込大学図書館長宛に以下の文書を送付

①「2014/2015年度 研究分科会会員の決定について及び2013年度 研修分科会会員の決定について(通知)」送付

②「2012-13年度研究分科会・2013年度研修分科会参加者一覧」（機関別）送付

③「2014/2015年度 研究分科会会員の不承認の決定について」（通知）送付

3. 今後の課題

今期の研究分科会の会員更新では、当初の締切時には参加応募が少数で、活動が不確定の分科会が複数あったこと、また年度末の人事異動を背景に応募受付延長の問い合わせも複数あったことから3月まで応募受付に対応し、ほぼ前期と同規模の更新結果となった。こうした状況のなか、分科会活動のための最少人数がクローズアップされた。分科会活動の成立人数については、現状、ルールが明確でなく、募集要項に明記されていないことが問題点としてある。また会員区分の明示についても募集要項と齟齬のない計らいが適正と考える。現在の応募状況を踏まえた研究分科会マニュアルの再確認と見直しが必要と思われる。

また、今回は3つの分科会が新規会員のみでの活動となり、1つの分科会が休会予定となった。どちらも図書館職員が中長期的に分科会活動に参加したり、従来のような密な交流を持つことが厳しい状況が背景にあり、今後緩むことは考えにくい。そうした中、例えば現行よりも短期間で活動する、テーマを提示し会員を募集するなど参加しやすい新しい分科会の模索や検討も必要ではないだろうか。

最後に、今年度から東地区部会加盟館への連絡に協会のメーリングリストが使用可能と

なった。メールは複数箇所への配信が可能で省力化の面でも、送信先の大学内、図書館内等での情報共有においても有効なツールである。今後は、このメーリングリストを広報ツールとしていかに活用して会員の拡大を図るか、それも課題のひとつである。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2013 年度東地区部会研究講演会

日 時：2013 年 6 月 14 日（金） 13：45～16：45（受付開始 13：00）

会 場：國學院大學 渋谷キャンパス 常盤松ホール

参加者：138 大学 233 名

司会者 （研究部運営委員） 清泉女子大学 阿部 尚子

- | | | |
|---------|--|-------------|
| 1. 開会の辞 | | 13：45～ |
| 2. 挨拶 | 研究部担当理事校 専修大学図書館長 | 大庭 健 |
| 3. 講演 | 「大学図書館と共に拓く学術情報基盤の新たな地平
～国立情報学研究所のコンテンツ事業の新展開～」 | 14：00～15：00 |
| | 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長 | 尾城 孝一 |
| | 質疑応答 | 15：00～15：15 |
| | <休憩> | 15：15～15：30 |
| 4. 講演 | 「学習支援の現在と図書館の新たな役割」 | 15：30～16：30 |
| | 青山学院大学 教育人間科学部准教授 | 野末 俊比古 |
| | 質疑応答 | 16：30～16：45 |
| 5. 閉会 | | |

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」142号に掲載予定

《 研 修 会 》

2013年度研修会

期 日 : 2013年11月14日(木)・15日(金)
場 所 : 桜美林大学町田キャンパス 崇貞館6階大会議室H
テーマ : みつけよう・伝えよう 大学図書館の魅力
参加者 : 62大学64名

《開催趣旨》

昨今、大学生の学習環境が大きく変化し、勉強はコーヒーを飲みながらスマホを片手にカフェで、という学生が珍しくありません。そんな中、図書館では入館者数の減少、貸出冊数の低迷に歯止めをかけようと、様々な工夫を凝らすもの思うような効果が上がらない、そんな声が多く聞かれます。

今年度の研修会は、自館の魅力を発掘しそれをうまく伝える方法について、桜美林大学図書館をモデルケースにして学びたいと思います。初日の講演と見学では、今の図書館が周囲からどのように見えているのかを、あらためて認識します。そして2日目は広告制作の専門家をお招きし、ブランディングについて学びながら桜美林大学図書館の魅力を探り、表現します。

ワークショップ形式の研修ですので他の大学の方と知り合うよい機会にもなると思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

《プログラム》

第1日 11月14日(木)

- | | |
|--|--------------------------|
| *受付 | 9:45~10:15 |
| *挨拶・オリエンテーション | 10:15~10:30 |
| 会場担当校挨拶 | 桜美林大学図書館長 秀島 武敏氏 |
| 研修委員長挨拶 | 慶應義塾大学三田メディアセンター主任 山田 雅子 |
| *基調講演 | 10:30~12:00 |
| 「我が国大学の致命的欠陥ー大学図書館は機能しているのかー」 | |
| 桜美林大学 大学院・大学アドミニストレーション研究科教授 | 諸星 裕氏 |
| 〈昼休み〉※図書館見学自由 | 12:00~13:15 |
| *講演 | 13:15~14:45 |
| 「大学図書館サバイバルのためのブランディング戦略ーコンセプトメイクからデザインングへー」 | |

帝京大学 総合教育センター 准教授

仁上 幸治氏

〈休憩〉

14:45～15:00

*ワークショップ事前説明

15:00～15:30

株式会社トランスヒューマン

渡邊 崇氏

株式会社シカケ

吉田 勇氏

*キャンパスツアー

15:30～17:00

桜美林大学

有志学生

*懇親会 桜美林大学 崇貞館1階ファカルティクラブ

17:20～18:50

第2日 11月15日(金)

*ワークショップ「桜美林大学図書館の魅力を表現する」

株式会社トランスヒューマン

渡邊 崇氏

株式会社シカケ

吉田 勇氏

(1) Work 1 課題の洗い出し、方向性の決定

10:00～11:30

〈昼休み〉 ※図書館見学自由

(2) Work 2 POP作成

12:30～15:30

〈休憩〉

(3) Work 3 発表および講評

15:45～16:45

*まとめとアンケート

ポスター展示 研修会場にて

「どうしたらもっとよくなる? ポスター作成のツボ」

- 情報交流のためのポスター展示 -

我が国の大学の欠陥

At
私立大学図書館協会
東地区研修会

桜美林大学
諸星 裕

ミッションの欠如

- いったいこの大学は何をするところなのか？
- ミッションに沿ってカリキュラムは編成されているか
- カリキュラムに沿って教員は雇われているか
- ミッションの点検、評価は？
- ミッションは変化しているか？

学部教授会の弊害

- 学校教育法85条、93条
- Collective Decision Making
- 学部間の壁
- 学生の自由な勉学環境を不可能にしている
- カリキュラムは誰が造り管理する

教員のAccountability

- 大学教員は何をする職業か？
- 教育(人に者を教えることを習ったのか？)
- 研究(その目的、レベルは)
- 学生の成長に貢献
- 大学及び外の社会への貢献
- 上記4点のバランスは誰が決めるか？

職員の専門性の欠如

- 終身雇用制・Generalist vs. Specialist
- 専門性の低さに起因する従属的關係

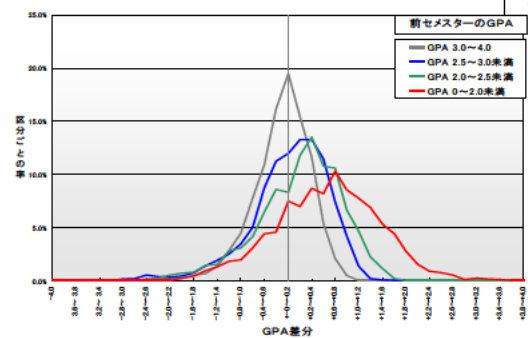
学外との隔離、閉鎖性

- 大学はコミュニティーのアセットである
- ミッションに即した地域との関係、貢献
- 他の教育機関との連携
- 産業界との接続、インターンシップ？
- 高大連携

システムやToolの欠如

- 大学の管理体制/組織の未熟さ
- 大学というコミュニティを把握できていない
(卒業生、地域社会、産業界、)
- 大学の産物は単位である—単位制授業料
- F.T.E.(Full Time Equivalent)
- アドバイザー制度、G.P.A.
- シラバスとは？

次セメスターのGPA変動



図書館を考える

- 学習拠点としての図書館
- 蔵書
- スタッフ
- 教員との関係
- コミュニティーの財産として
- Material Library
- Inter-library Loan
- 図書館のマネージメント

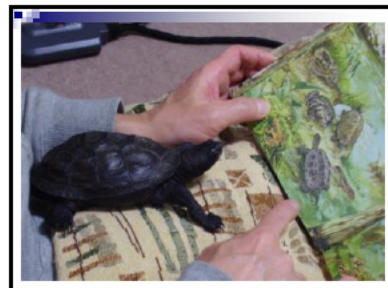
御清聴ありがとうございました。

桜美林大学 諸星 裕
morohosh@obirin.ac.jp

●私立大学図書館協会地区部会研究部研修会
 テーマ「みつけよう・伝えよう大学図書館の魅力」
【講演】
大学図書館サバイバルのための
ブランディング戦略
 -コンセプトメイクからデザインングへ-

講師 仁上幸治
 (にかみ・こうじ/ 帝京大学総合教育センター准教授)
 ■2013年11月14日(木)13:15~14:45(90分)
 ■桜美林大学 町田キャンパス 集点館 6階会議室F

- 2001年、新宿西口の路上で拾得
- 室内放し飼い
- 名前は **ワカメ**



- クサガメ
- 爬虫類=下等動物?
 - 寝てばかり?
 - 鈍足?

- プロローグの重要性
- 動画の現物再現力
 - 画像の細部説明力
 - 話のツカミ
 - 自己紹介のイントロ
 - 自分ブランディング

- 仁上幸治 (にかみ・こうじ)
- 帝京大学 総合教育センター准教授
- 元・早稲田大学図書館司書

- 略歴
- 私立大学図書館協会企画広報研究分科会 代表
 - 日本図書館協会図書館利用教育委員会 委員
 - 非常勤講師(法政大学、亜細亜大学、東京家政大学、桜美林大学)

- 桜美林大学
- 2006~2008年度
 - 司書教諭課程
 - 情報メディアの活用
 - 学校図書館メディアの構成

イマドキの学生

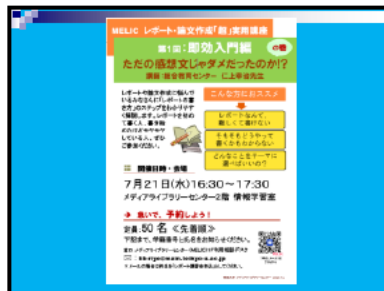
誤字脱字

- 図書館過程
- 図書館家庭

口語表現

- パツと見 → 一見すると

- ×有効的 → 有効な、効果的
- ×情報リテラシー能力 → 情報リテラシー
- ×以外に → 意外に
- ×なので → したがって
- ×ですが → しかし
- ×じゃなくて → ではなく
- ×ちゃんと → きちんと、適切に
- ×ものすごく → 非常に



図書館主催の課外講座

- 講師担当(3年間)
- 資料公開(配付資料・スライド・アンケート結果)
- 動画もアップ(2012年。学内限定)

ウサギとカメ

- イソップ童話
- カメ
 - 鈍足
 - 地道に着実な歩み
 - 最後に勝つ
 - …でもメンドクサイ!

- カメはノロくない!
- 俊足のカメなら無敵!

最近の研究テーマ

- 図書館ブランディング
- 図書館員の自分ブランディング

お願い

- 一回性のライブ
- スライド内容は後日ファイル配付
- ノート不要
- 感想・質問用のメモOK
- プロジェクター、照明、マイクボリューム、エアコンなど受講環境についての要望は随時

講演内容

- 第1部 問題の設定
- 第2部 図書館員の状況
- 第3部 企画立案の枠組みの再考
- 第4部 取り組みの計画づくり
- 第5部 改革への提案

第1部 問題の設定

- 【1】利用者減少の実情
- 【2】立地の問題
- 【3】対策の枠組み

【1】利用者減少の実情

館の実績

- サービス認知度が上がらない
- 利用が増えない

組織

- 図書館が組織の中で重視されていない(「突出はいかがなものか」)
- 上司が保守的
- 同僚が拒絶反応
- 外部委託・異動による人材育成の困難、研修コストの上昇

難関をどう突破すれば
よいか？

【2】大学図書館の利用者減少対策

- ◎筑波大学付属図書館
- ・スターバックスコーヒーを誘致
- ・利用者増に結びついたか？

- ◎帝京大学図書館(MELIC)
- ・スターバックスコーヒー誘致挫折
- ・学外コラボによる読書推進
- ・大型予算

共読ライブラリー

- 松岡正剛・編集工学研究所とのコラボ企画

絶大な効果

- 利用促進
- 学内PR
- 学外宣伝
- 話題提供

問題点

高額予算

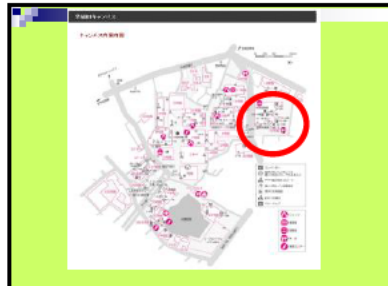
学生の認知度

「マツオカセイゴオ、誰？」

【2】立地の問題

立地の問題

- ◎東北学院大学図書館
- ・メインキャンパスから一般道路をはさんで隣に立地。生協ビルから地下道を抜けて入館可能。
- ・1階はカウンターと参考図書。学生の反応「これしか本はないのか～」と帰ってしまう。
- cf.早稲田大学図書館新館(1991)
- ・図書館体操が話題に！(NHK「投稿Do画！」取材)





【3】対策の枠組み

- 利用者減少はなぜいけないのか？
- 図書館予算の減少はなぜいけないのか？
- 図書館組織の統廃合はなぜいけないのか？
- 図書館員の減員・外部委託はなぜいけないのか？

- 情報サービス職は図書館組織内にないとけないのか？
- 図書館員という職種の存続を目的にしてよいのか？
- あなたは大学内で何をしたいのか、したかったのか？

デパートの凋落

- 立地問題
- 新宿学
- 繁華街西伸説(プラタモリ)

立地の責任

- 大学キャンパス整備計画
- 動線計画
- コンビニなら撤退

図書館の学内の位置づけ

- 「心臓」説より「盲腸」説
- 入試広報の写真
- 専門職だから外からはボラックボックス
- 図書館員にまかせておけばよい
- 無関心

限界値を知る

- 努力と結果は正比例しない
- 上限に限界値がある
- 無駄な努力はしない
- 労力の重点配分は戦略的だ
- 効果的効率的な取り組み

事前課題アンケート

回答数

54件/ 64名中
回答率 84.3%

◆仁上幸治. 研究文献レビュー「図書館の「広報」は進化しているか？—説明責任と自己アピールの時代に求められる理論と実践—」『カレントアウェアネス』No.305, 2010.9, pp.16-24. CA1728:

HTML版:
<http://current.ndl.go.jp/ca1728>

* 仁上先生の文献を読んで、共感したところ、より深く聞きたい内容があればご記入ください(200字以内)
ヒアリングシートにご記入ください。

多かった質問

- どうしてよいかわからない
- どこから手を付けてよいかわからない
- 自分に何ができるか自信がない
- 教えてくれる人がいない

一番ショッキングな回答

■ 申し訳ございません。
特にありません。

第2部 図書館員の状況

- 【1】図書館員の状況
- 【2】研修の必要性
- 【3】研修の機会

【1】図書館員の状況

図書館員とは誰か

- 無関心図書館職員の異動
- 学内他部署からの転入
- 学内他部署への転出

図書館との関わり

- 利用者だったのか？
- 理解者だったのか？
- 支援者・協力者だったのか？

とまどい

- 慣れない業務
- あれこれ忙しい
- 長年の伝統と慣例
- 職場の保守的な空気

自習状況

- 『図書館広報実践ハンドブック』(2002)
- 『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』(2003)
- 『情報の達人』(DVD全3巻33講)(2007)
- 『情報リテラシー教育の実践ーすべての図書館で利用教育をー』(2010)

読んでない

(-”-)

図書館が魅力的でない8つの理由

- 1)オリエンテーションが地味
- 2)講習会がありきたり
- 3)広報紙が平凡
- 4)利用案内が旧態依然
- 5)新着図書案内が書誌データの羅列
- 6)図書館員の古いイメージどおり
- 7)研修を活かせない組織風土
- 8)研修成果を応用しない姿勢

全部裏返す！

できない理由

- 能力
- 意欲
- 本気度
- ・身を切る
- ・体を張る

【2】研修の必要性

図書館員の仕事力

- パソコンスキル
- 事務処理能力
- 企画力
- 広報力
- 政治力

研修の必要性

- 新任者の底上げ
- 在任者の知識更新と意識改革
- 館員・管理職・館長

[3]研修の機会

研修分科会

●私立大学図書館協会東地区部会研究部研修分科会
第2回「大学図書館サービスの新たな展開」
【講演】

次世代図書館員のための 自己アピール講座

ー存在感訴求力をどう身に着けるかー

■日時：2009年7月10日（金）

講演とワークショップ

講師

- 仁上幸治氏(にかみ・こうじ/帝京大学 総合教育センター 准教授;元・早稲田大学図書館)
- 渡邊 崇氏(わたなべ・たかし/広告制作ディレクター・コピーライター)

大学図書館サービスの新たな展開 【講演とワークショップ】 参加者アンケート集計結果報告書

2009年7月4日（金）発表
報告者：199 部人、大学図書館支援機構（JALIS）/東野真由子

■日時：2009年7月19日（金）13:00-17:00
■会場：私立大学東地区アクションショップ（3F サビアタワー9階）
■主催：私立大学図書館協会東地区研究部
■協賛：199 部人、大学図書館支援機構（JALIS）

【1】家とめ

総合満足度：4.92点（5点満点）

刺激的で実践に役立つ面白い内容を
斬新なプレゼンで楽しく学べて、新たな
視点から未来が見えて来た！グル
ープワークは情報交換の機会になっ
て良い。時間不足が残念。もっと聞き
たいテーマ多数。新しい形の研修の
今後の楽しみ！

まとめ

- 総合満足度：4.92点（5点満点）
- 刺激的で実践に役立つ面白い内容を斬新なプレゼンで楽しく学べて、新たな視点から未来が見えて来た！グループワークは情報交換の機会になって良い。時間不足が残念。もっと聞きたいテーマ多数。新しい形の研修の今後の楽しみ！

研究分科会

私立大学図書館協会
東地区部会
研究部
研究分科会

- 存続か休止か廃止か
- 瀬戸際

企画広報研究分科会

図書館総合展 2013

- 満員御礼
- 立見盛況

●私立大学図書館協会東地区部会研究部
企画広報研究分科会主催シンポジウム
【基調講演】

図書館サバイバル用 「万能道具箱」の今

—企画広報ツールの研究開発30年の到達点と課題—

■会場：図書館総合展 パシフィコ横浜 第9会場
■日時：2013年10月29日（火） 10：00-11：30

- 基調講演：仁上幸治（帝京大学准教授）
- スピーカー：太田香保（松岡正剛事務所）
- スピーカー：山田かおり（嘉悦大学情報メディアセンター図書グループ長）
- スピーカー：中嶋康（帝京大学メディアライブラリーセンターグループリーダー）
- プレゼンター：島田貴司（立正大学情報メディアセンター）

分科会小史

企画広報力強化のための自主
ゼミ型共同研究
—専門性崩壊状況における存在
感訴求の可能性を求めて—

企画広報研究分科会20年 の歩み

- 第1期 1980-81 図書館サービス研究分科会 広報グループ
- 第2期 1982-83 図書館サービス研究分科会 広報グループ
- 第3期 1984-85 パブリックサービス研究分科会 広報グループ
- 第4期 1986-87 **企画広報研究分科会**

Plan Do Seeサイクル

- 遊びゴコロ
- 現状分析・改善案立案
- 提案・実行・評価

勢い

- 改善
- 変革
- 革命

1980年代

図書館のマイナスイメージ

- 「暗い」 K
- 「堅苦しい」 K
- 「カッターイ」 K

プラスイメージ

明るい : A
気軽 : K
便利 : B

研究分科会 今昔

企画広報研究分科会

- これからは企画と広報の時代
- 先駆者・預言者？

マナーポスターの制作

- 公募
- 厳しい審査
- クリエイターにとって狭き門
- 一般の注目を集める

私立大学図書館協会企画広報研究分科会

- 広報手段の共同制作 1984—
- 日本図書館協会へ移管 1998-99
- 2005復活

ポスター共同制作

- 全国的な支持者
- 定着と期待

異端者の運命

- 秘密結社か新興教団か

研究部からの批判

- 共同制作は研究ではない！
- 本来の研究に戻れ！

職場での逆風

- 外でばかり活動
- 本務が疎かでは困る

迫害と受難

- 付属高校出向
- 遠隔地異動
- 館外異動
- 退職
- 転職

共同制作の移管

- 企画広報研究分科会から
- 日本図書館協会へ

日本図書館協会

- 1998、1999
- 木原庸佐
- コニーちゃん
- フジテレビ「ポンキッキーズ」

- 日本図書館協会の中断
- 企画広報研究分科会での復活

現場は壁に囲まれている
！ (-"-)

「広報＝戦略」説

- 1) 図書館員の病気10
- 2) 図書館組織の病気10
- 3) 4段階発展モデル
- 4) 広報20大手段
- 5) 基本戦術42

* 図書館員の10大症候群

- (1)「懐古感傷」症、または「雅(みやび)破壊反対」説
- (2)「応答中毒」症、または「対話の喪失防止」説
- (3)「大衆嫌悪」症、または「過保護無用」説

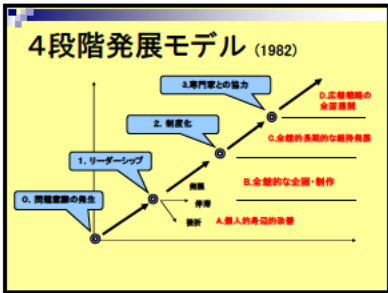
- (4)「協働拒否」症、または「我不関知」説
- (5)「怠惰居直」症、または「呼び込み＝仕事増御免」説
- (6)「不毛謙虚」症、または「自力勉強唯一」説

- (7)「体得過信」症、または「マニュアル過信禁物」説
- (8)「無策安住」症、または「そこまでやらずに済む」説
- (9)「自信過剰」症、または「オレがやらなきゃ誰がやる」説
- (10)「外注拒否」症、または「自前手作り満足」説

- * 図書館組織の病気**
- (1)本務優先主義
 - (2)前例主義
 - (3)場当たり主義
 - (4)減点主義
 - (5)部門至上主義(セクショナリズム)

- (6)完全主義
- (7)クソマジメ主義
- (8)事なかれ主義
- (9)居座り主義
- (10)体面主義

壁を壊すには戦略が必要！



広報20大手段 (1982)

(広報支援手段)
(広報手段)

- (広報支援手段)**
- 1. 広報ノート
 - 2. 質問メモ
 - 3. スタッフマニュアル
 - 4. 事務工程分析図
 - 5. 企画書

- 6. 館内報
- 7. 打合せ会
- 8. 広報委員会
- 9. 年次計画書
- 10. 年次報告書

- 11.中長期計画書
- 12.図書館委員会

(広報手段)

- 13.オリエンテーション
- 14.投書箱
- 15.本の架
- 16.利用案内
- 17.PR紙

- 18.ポスター
- 19.ビデオ
- 20.サイン計画

基礎理論の研究から！

基本戦術42

- 「壁」を超える戦略と戦術
- 考え方の基本10

実践への応用が前提！

パスファインダーバンク

右肩下がりの時代

- 派遣
- 委託
- 指定管理

専門性の崩壊

- 専任職員の減少

現場

- ひとり職場
- やりたい放題？
- 研修疲れ

脱出なるか？

- 図書館員の大学院進学ブーム
- 研究の復興

展望

- 会員数の奇跡のV字回復なるか？

企画広報研究分科会

万能工具箱 プロジェクト

- 時代を先取りした異端の先駆者か
- ニッチなスキマ産業か

そして誰もいなくなっ...
ては困る!!

来期新会員募集
近日公開迫る！

第3部 企画立案の枠組みの再考

- 【1】図書館ブランディングの基本的な考え方
- 【2】図書館政策の立て直し
- 【3】活動の場としての図書館
- 【4】利用者教育・利用促進

【1】図書館ブランディングの基本的な考え方

図書館グッズ研究

アメリカ図書館協会
■ American Library Association (ALA)

まとめ
■ 日米格差
■ 図書館の好印象を作るグッズの威力
■ 参考例は図書館外にいくらでもある

図書館総合展2007

● 図書館総合展フォーラム講演会
(主催: 社会福祉法人 埼玉福祉会)

【講演】
**図書館グッズが利用者
と館員を変える!**
—イメージ戦略の先進事例—

講師 仁上幸治 (にかみ・こうじ)
■ 2007年11月18日(木) 10:30~12:00 (90分)
■ パシフィコ横浜フォーラム第3会場

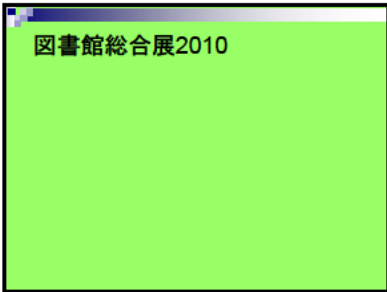
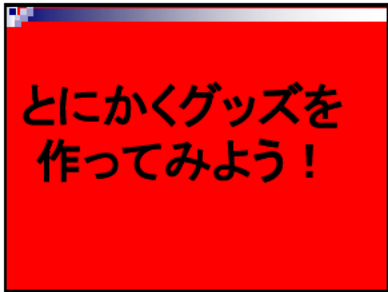
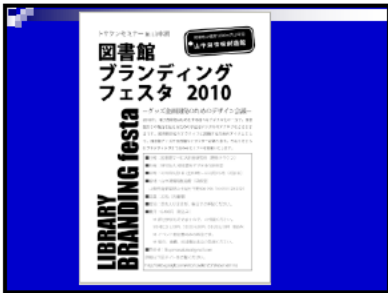
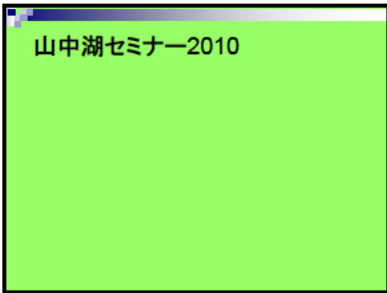
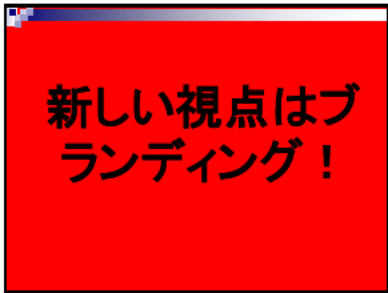
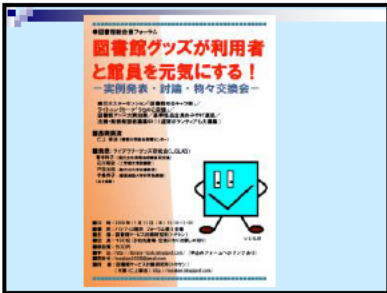
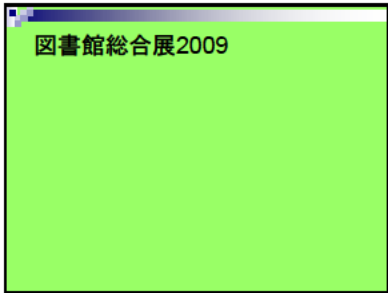
旭川セミナー2009

● 旭川医科大学図書館主催・旭川市図書館共催
講演会

図書館をもっと元気に!
—“グッズ”活用による新発想広報のすすめ—

■ 講師 仁上幸治 (にかみ・こうじ)
■ (帝京大学総合教育センター准教授/元・早稲田大学図書館司書)
■ 2009年9月12日(土) 14:00~16:00 (120分)
■ 旭川市中央図書館 2階 視聴覚室

図書館サービス計画研究所
(略称トサケン)
メーリングリスト会員600名
全館種 全国
勝手にセミナー



図書館総合展2011



●図書館総合展2011 トサケンフォーラム

今日から使える図書館ブランディングセミナー(2) コンセプトメイクから デザインングまで

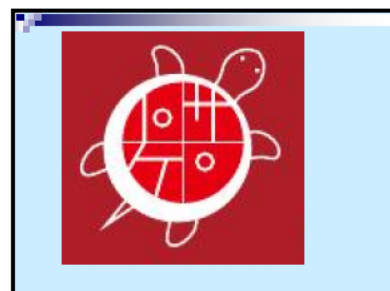
- 主催：図書館サービス計画研究所(略称トサケン)
- 2011年11月11日(金) 10:30~12:00
- 第2会場 (パシフィコ横浜 アネックスホール202)

プログラム

- **基調講演**「ブランディングはアイデンティティの明確化から」
 - 仁上幸治(帝京大学総合教育センター)
- **事例報告**「Idea Storeのデザインワーク」
 - 青木玲子(和光大学 非常勤講師)
- **文献紹介**「デザインングのための即効ブックトーク」
 - 丸山高弘(山中湖情報創造館 指定管理者館長)
- **ワークショップ**「やってみよう！コンセプトメイク」
 - 渡邊 崇(広告制作ディレクター)

トサケン自体を例題にしたブランディング

- アイデンティティ
- コンセプト
- デザインエレメント
- マーク、シンボル、ロゴ



グッズ作ったら実際に使ってみる！

ブランディング

- 基本的な考え方を知ろう
- 先進事例を見よう
- 蔵書を活用しよう
- まずやってみよう！

**デザインングの前に
コンセプトメイクを！**



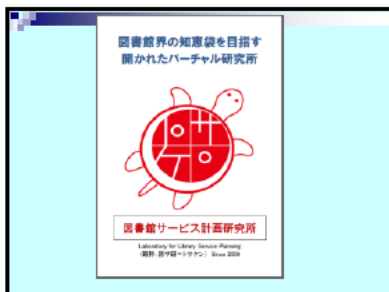
広告業界に学ぼう！
ついでに
人脈を作ろう！

- 研修の条件
- 誰でも簡単にできる
 - すぐに役立つ実用本位
 - ワークショップ形式

- 研修テーマ候補
- キャッチコピー講座
 - 広告レイアウト講座
 - パブリシティ講座
 - ブランディング講座
 - デザイン強化合宿
 - プレゼンテーション講座
 - スライドショー作成講座
 - アドヴォカシー講座

- ブランディング
- 館のブランディング
 - 館員の自分ブランディング

図書館総合展2012



まずは図書館ブランディング

図書館員イメージ

- 本が好き(=人が苦手)
- 暗い
- 消極的
- ヒマ
- ユルい授業 安易な資格

能力と姿勢

図書館員イメージを転換
するために必要なこと
は何か？

図書館のPR

(パブリック・リレーションズ)

- 中西元男『コーポレート・アイデンティティ戦略—デザインが企業経営を変える』誠文堂新光社, 2010.4.

世界で一番読まれているマーケティング教科書！

- コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版
- 著: フィリップ・コトラー (Philip Kotler)
ケビン・レーン・ケラー (Kevin Lane Keller)
- ピアソン・エデュケーション
- 2008年12月20日
- 474p.
- 価格: 3,990円

- ケラー, ケビン・レーン, 恩蔵直人
監訳『戦略的ブランド・マネジメント』
第3版, 東急エージェンシー, 2010.
- 845p, 7980円(税込)

なぜ低い？

- 認知度
- 利用率
- 親組織内の重要度
- スタッフの労働条件

図書館員の名刺

- 事例研究

どこかダメか？

- 同じ組織なのに印象がバラバラ
- ロゴの書体
- マーク、シンボル
- レイアウト
- カラー
- ひな形なし？！

【2】図書館政策の立て直し

1)なぜ来館者数を増やさなければならぬのか？

- 投下資源と産出サービスの運用効率
- 人員削減防止 >> 学内人材の再配分

2)非来館型サービスの推進は何のため？

- 電子ジャーナルの契約数の増加
- オープンアクセス化の推進
- ホームページ上のサービスの拡充
- 電子書籍の導入
- 全学生に電子書籍端末配布

3)理系研究者の理想は全電子化 + 無蔵書!?

- ILL/DD申込・キャンセル分析
- 電子ジャーナルの契約範囲の中途半端さ
- リンクリゾルバの精度不足が所蔵あり見落としの原因
- 電子資料とプリント資料所蔵検索は面倒！

- 利用者教育の受講はコスト！
- プリント資料の所蔵ありは来館＝自カコピーのコスト要因！
- 論文のオンライン複写デリバリーこそが理想
- 図書館の施設・組織・要員は不要

4)学部生の学習用プリント資料の効果的提供

- 教育＝学習の授業直結ニーズの創出とサービス提供
- 本来的利用の核となりうるか？

【3】活動の場としての図書館

【3】活動の場としての図書館

- 図書館(資料・人材)を使う
 - 蔵書、電子ジャーナル
 - レファレンスサービス、ILL/DDサービス
- 図書館(施設・設備)を使う
 - PC等の学習・発表機器+ラウンジ(ラーニングコモンズ)
 - 発表の場(例:大阪芸術大学)
 - 図書館員はコーディネータ、ファシリテータ

【4】利用者教育・利用促進

【4】利用者教育・利用促進

少利用者を多利用者に！

- ・ハードコア・ノンユーザーをライト・ユーザーに
- ・ライト・ユーザーをヘビー・ユーザーに
- ・ヘビー・ユーザーをスーパー・ヘビー・ユーザー兼インストラクターに！

第4部 取り組みの計画づくり

- 【1】図書館の経営環境と図書館長の役割
- 【2】奇蹟のV字回復への戦略
- 【3】図書館と図書館員のイメージを変える
- 【4】ネックを超えるー具体的・現実的・実行可能な案を作るー

【1】図書館の経営環境と図書館長の役割

【2】奇蹟のV字回復への戦略

【3】図書館と図書館員のイメージを変える

【4】ネックを超えるー具体的・現実的・実行可能な案を作るー

**明日のワークショップで
徹底討論を！**

第5部 改革への提案

- 提案1: 5つの特効薬を試す
- 提案2: 外堀を埋める
- 提案3: 本丸を攻める
- 提案4: ブランディングを強める
- 提案5: 自分ブランディング
- 提案6: 研修を変える

提案1: 5つの特効薬を試す

提案1: 5つの特効薬を試す

- 1) オリエンテーションと講習会を変える
- 2) 帳票に指導内容を埋め込む
- 3) ホームページ上に配付資料とスライドを公開する
- 4) 探索法指導内容をパスファインダー形式に作り変える
- 5) 教科書を作る(一般・専門・研究)

提案2: 外堀を埋める

提案2: 外堀を埋める—非利用の原因をツブす—

- サービス・コンセプトはAKB(明るい・気軽・便利)
- グッズで認知度・好感度アップ
- カフェで集いの場の提供
- ラーニングコモンズで学習支援

提案3: 本丸を攻める

提案3: 本丸を攻める

- 大学基礎教養教育への直接貢献
- リザーブ図書制度の本格運用

「指定図書」という誤解

- Reserve Books
- 大学教育支援サービスの必須基幹システム
- 受講生数と読了締切日に合わせた最適冊数と貸出期限
- 教員・事務職員と図書館員の本来的協働

教員キーパーソンの発見と協働

- ガイダンスのイメージチェンジ
- 講習会の高度化

提案4: ブランディングを強める

提案4: ブランディングを強める

- マーク、シンボル、ロゴタイプ
- マスコットキャラクター
- 図書館グッズ

提案5: 自分ブランディング

提案5: 自分ブランディング

- 名刺
- イベント参加(学内外)
- 発言
- 発信(SNS)

自分ブランディング 検定

伝えたい自分イメージ

- 1)プランナー
- 2)コーディネータ
- 3)プロデューサー
- 4)インストラクター
- 5)クリエイター

提案6: 研修を変える

提案6: 研修を変える

- いつでも相互扶助
- 気軽な情報交換
- 「やりっぱなし」から「フォローアップ重視」へ

テーマ

- キャッチコピー講座
- 広告レイアウト講座
- パブリシティ講座
- ブランディング講座
- デザイン講座(強化合宿)
- プレゼンテーション講座
- スライドショー作成講座
- アドヴォカシー講座

フォローアップ装置

- 参加者メーリングリスト(同期の桜)
- 事例紹介共有サイト(投稿・閲覧)
- 研修資料アーカイブ
- 研修成果報告発表大会

すぐ始められる取り組み

1)作り直す品目

- 名刺
- サイン
- 封筒
- 利用者カード
- 図書館グッズ

2)見直す必要がある視覚要素

- 名称・用語
- ロゴマーク
- キャラクター
- デザインコンセプト

用語

- 「貸出・返却」
- 「禁帯出」
- 「書架」
- 「NDC」

3)連携の仕掛け

- 館内一丸
- 地域内図書館間連携
- 類縁機関連携
- 異業種連携

4)推進体制

- 改善マインド
- 改善チーム

* 結論

いつ始めるか？

今でしょ！

- 1. 参考文献
- 2. 参考サイト
- 3. 講師紹介
- おみやげ: ALALおり
- ALAGraphics
[□http://www.alastore.ala.org/catalog.aspx](http://www.alastore.ala.org/catalog.aspx)

質疑応答

ありがとうございました。

ワークショップ事前説明

広告業界におけるブランディングの考え方

2013年11月14日
私立大学図書館協会 東地区部会研究部研修会

講師/株式会社トランスヒューマン 渡邊 崇

IMAGE

ブランディングとはなにか？

ブランドは元々、自分の家畜などに烙印を施し、他者の家畜と区別するために行われたものである。商標法で保護されている「ブランド」も同じような商品を見分けるために製造元が取り付けていた商標やマーク、タグなどの付属物に過ぎない。しかし、その商品が優れていた結果広く使われ、いつの間にか、その商品を選ばないで済む必要がなくなり、現代では、マーケティング活動におけるブランドの価値が注目されており、欧米における企業買収、合併に際して「ブランド価値」無形資産として高く評価されている(例:たばこ会社のフィリップモリスが食品会社クラフトを買収したときや、ネスレがイギリスの菓子メーカーを買収した際には、ブランド価値に対して巨額を支払った)。

なんのこっちゃ？

他人のものとの区別
↓
自分のものである「印」…ロゴマーク
↓
他人とどう区別すれば
認知してもらえるのか？を考える
↓
ロゴマークから自分という
姿・モノ・意識を他人がイメージしてくれる
↓
ロゴマークそれ自体に価値が生まれる



「PR」とどう違うの？

「PR」=パブリック・リレーションズ

つまり、「公的に(世の中へ)情報を発信し、ターゲットに対して関係性をもつことを目的とする。

ブランディング=
「自分だけの価値」「自分しかない価値」を
つくりあげること。

■ ブランド構築のためのポイント

■ ブランド認知の基本構造

③シンボル化によるイメージ=『顔』が必要
さまざまなメリット(特色)を真くメッセージ、「うちの図書館が他の図書館と違うのは、***ことなんだ」という普通の言葉で隠れる代名詞が必要ではないか。

②価値を知るための「翻訳」が必要
「あなたの『味方』としての価値=メリット(特色)」とは何かをイメージさせることが重要。

①図書館の可能性の広がり、全体像の提供
図書館が行なっている事業・サービスの全体像を、理解できるように多面的な情報を提供しなければならないのでは？

EXAMPLE

ブランディングの成功事例

図書館のお話から少し離れます。
ブランドの成功事例のお話。

■ 大手携帯キャリアのブランド構築事例

■ ブランド認知の基本構造

③シンボル化によるイメージ=『顔』が必要
そこで誕生したのが、「白戸家」。
白戸=「ホワイト」、お父さん=犬、お兄さん=外国人など、不思議な家族。それをシンボルとして、サービスの特色、サービスの価値を「翻訳」して伝える。結果、「白い犬」=タガトモ、通話サービスなどの特色を幅広い層に認知させている。

②価値を知るための「翻訳」が必要
そのままサービスの特徴を伝えても、ユーザーの印象には残りにくい。そこで、ユーザーが目見た際にインパクトのある「顔」をつくり、その「顔」から、わかりやすく「翻訳」したメッセージを放つようにする。

①市場の可能性の広がり、全体像の提供
携帯電話の加入に際して、さまざまなサービスを展開。
無料通話など料金面および、新機種の新し性などが特徴。

世界市場でもトップシェアだからこそ、ブランドを重要視。
徹底した秘密主義の製造方法、イメージ戦略を心掛ける。

■ 飲料製品のブランド構築事例

■ ブランド認知の基本構造

③シンボル化によるイメージ=『顔』が必要
ロゴマーク、瓶の形状(フォルム)など、一度みれば、すぐに商品が連想できるイメージ戦略。

②価値を守るための「翻訳」が必要
独自の風味を守るための企業秘密。
他社にはマネができないブランドマネジメントの徹底

①ここにしかない味、歴史
100年以上守り続ける独特の風味。その歴史

あまり差別化が図れない、携帯電話サービス。そこで生み出されたのは、一度みたら忘れられない「世界観」の創出。

では、次に図書館の事例です。

■ 大英図書館のブランド構築事例

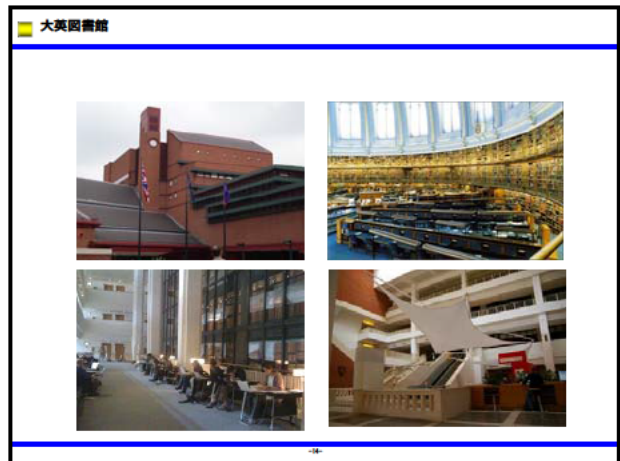
■ ブランド認知の基本構造

③シンボル化によるイメージ＝『顔』が必要
 人間的の顔とも見えそうは、貴重な資料を取りそろえている大英図書館。その歴史と、そこにかかわった人物たちが、ブランドとなる。そのために展示会、出版物などに、英国のPR上をスタートを起す。

②価値を知るための『顔』が必要
 その『価値』をどう説明するのか。人間的の顔とも見えそうは、貴重な資料を取りそろえている大英図書館。その歴史と、そこにかかわった人物たちが、ブランドとなりつつあるが、それを一瞬でインパクトにとどめる方法が必要。

①市場の可能性の広がり、全体像の提供
 伝統ある大英図書館。近年、その影響が確認されるほど、資料が揃えられている。利用者も増えているが、「大英図書館」だからこそ求めてくる価値がある。

すでに認知度が高いから・・・だからこそ利用者の要望も日に高くなる。
 いかに満足度の高いサービスが提供できるか。
 世界から集まる利用者へのメッセージを発信。



■ ニューヨーク公共図書館のブランド構築事例

■ ブランド認知の基本構造

③シンボル化によるイメージ＝『顔』が必要
 建物のデザインもさることながら、レベルが高いレファレンスサービスの提供こそが、『顔』。世界各国のとも開架され、利用者カードもすぐに手続きできるなど、『閉ったときは図書館にいわば、解決の糸口が見つかる』という取組を推進している。

②価値を知るための『顔』が必要
 その『価値』をどう説明するのか。公共図書館という強みを用いて、資料で申し込んでも必要なくインターネットを使えたり、館でもほいほい情報を入力できる場を設ける。その『使い勝手のよさ』を、具現化することで、ここしかない『価値』を体験してもらおう。

①市場の可能性の広がり、全体像の提供
 ニューヨークという立地条件からいって、地元住民だけではなく、旅行などで訪れた人々も利用しやすいサービスを構築し、館でも『知識』に繋がれる機会均等を提供する。

地域住民だけでなく「旅人」のための図書館」とも見えるようなサービスの展開。
 誰もが利用しやすい、ずっといても居心地もよい公共図書館へ。



■ 山中湖情報創造館のブランド構築事例

■ ブランド認知の基本構造

③使い勝手のよい情報センターというイメージ＝図書館だけではない広がり
 建物のデザイン、図書館のレファレンスサービス以外にも、『創造』する拠点としての機能が図書館という枠にはまらないイメージを構築。

②価値を知るための『顔』が必要
 その『価値』をどう説明するのか。気軽にインターネットを使えたり、詳しい情報を得られるアプリの工夫が活用によりはたされている。来るだけで『わくわく感』が醸成される環境を構えている。

①市場の可能性の広がり、全体像の提供
 山中湖という立地条件からいって、地元住民だけではなく、旅行などで訪れた人々も利用しやすいサービスを構築し、館でも『知識』に繋がれる機会均等を提供する。

来て楽しい、何か得られる。歴史、風土、最新情報まで、工夫が散りばめられている情報センター



DESIGNING

実行に移してみる。

グループワークの前に・・

グループ名をつけよう！

そして明日、
みなさんに
チャレンジしていただくことは・・・

ワーク1

課題を洗い出し、共有しよう！
方向性を決定しよう！

ワーク2

実際に、
課題解決策を考えて
手を動かしてみよう！

ワーク3

プレゼンテーションして
みんなと共有してみよう！

そこで！

桜美林大学
キャンパスツアーを
行って頂きます！

2013年度 研修委員会報告

研究部 研修委員長 山田 雅子

1. 2013年度研修会 報告

■実施概要

テーマ：「みつけよう・伝えよう 大学図書館の魅力」

日程：2013年11月14日（木）～11月15日（金）

場所：桜美林大学 町田キャンパス

■開催趣旨：

最近、多くの私立大学図書館は「入館者数の減少」「図書予算の削減」「人員削減」といった厳しい現実に直面している。学生が図書館に来なくなり、経営母体には十分に認められていないという状況の中で図書館員は自信を失いつつある。そこで今年度の研修会は図書館の価値を再認識したく「ブランディング」をテーマとした。図書館は今、経営側や他業種の人からどのように見えているのか認識した上で、図書館の価値、特にその館にしかない魅力を探し、それを表現する力を養う研修とすべく企画した。

■プログラム：

（別紙参照）

基調講演、講演、ワークショップに向けた講義

キャンパスツアー

ワークショップ

ポスター展示

■参加者数

62大学 64名。

申込み数はのべ69大学75名。募集定員の60名を上回ったため数名に対し謝絶した。

■特記事項

- ・ 研修に先立ち参加者に対して事前アンケートを送付し、関心のあるテーマや研修に期待すること等の情報収集を行った。
- ・ ワークショップでは、6名ずつ10グループに分かれ、学生に桜美林大学図書館の魅力を伝えるPOPを作成した。実習の準備として、初日にはブランディングの手法を学び、学生にキャンパスを案内してもらった。2日目の実習では渡邊氏に加えて吉田氏と学生が助言や説明を行い、最後には実習作品に対しそれぞれの立場から講評を行った。
- ・ ポスター展示は、図書館で既に使用した学生向けポスターを募集したところ18大学から応募があった。ポスターには吉田氏の講評コメントを貼付した上で研修会場に展示した。
- ・ 2013年度研修会のハッシュタグを作成し、ツイッターを研修委員、参加者、桜美林大学生の交流の場として活用した。

- ・ 研修会終了後、作成した POP をキャンパス内に約 2 か月掲示させていただいた。それに対し桜美林大学学生の有志により「図書館ポスター総選挙」が実施され、その結果が研修会参加者に報告された。
- ・ 研修会后、ホームページ上に参加者のみアクセス可能なサイトを作成し、研修会関連情報（POP の講評、ポスター展示の講評、図書館ポスター総選挙結果等）を期間限定で公開した。

■ 研修会を振り返って

昨年に引き続きワークショップ形式の研修を行いたいと考え企画を練った。今回は「桜美林大学」を実習の題材にしたことで、会場校の学生や図書館スタッフに多大なご協力をいただいた。グループの活動を初日午後から開始したことが功を奏し、2 日間を通じて参加者間および会場関係者との交流が活発に行われた。

研修会の準備過程で様々なアイデアが出され、事前アンケート、ツイッターの利用、事後評価等の企画を追加して実施した。それぞれ研修に厚みを持たせる企画となったが、やや準備が足りず目的や活用方法をもう少し練ればさらに効果があったと思う。

実施後のアンケートは、すべての項目について 8 割以上の人から「大変よい」または「よい」の回答を得た。特に学生の力を借りた点について、多くの参加者から好評のコメントをいただいた。

2. 2014 年度 研修会について

■ 日程、会場

早稲田大学（早稲田キャンパス）を予定。日程は未調整。

■ 研修委員

委員は全員任期満了により交代する。次期委員長は明治大学が担当。現委員長はオブザーバーとして残り委員長を補佐する。事務局は継続 2 年目。

■ 研修会形式

今期メンバーで昨年度と今年度、実習形式の研修を 2 回試み、成果を感じている。ただ、委員だけでワークショップを実施することは難しく、依頼先の確保が要件となる。また、依頼先との調整にも労力を要する。次期メンバーで再度検討されたい。

以 上

決算報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

収入の部

単位:円

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘要
部会交付金	2,447,900	2,447,900	0	@13,000円 × 0.7 × 269校
研修会参加費収入	210,000	192,000	18,000	参加費:@3,000円 3,000 × 64名 × 1回
研究会参加費	0	0	0	
雑収入	1,000	3,473,937	△ 3,472,937	預金利息619円 分科会費残金返金 3,473,318円
小計	2,658,900	6,113,837	△ 3,454,937	
前年度繰越金	3,322,778	3,322,778	0	
合計	5,981,678	9,436,615	△ 3,454,937	

支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘要
研究会開催費	500,000	132,538	367,462	消耗品代(印刷用紙・インク・クリップ) 13,188円 飲物・昼食代 59,350円 報告大会資料作成費 @10,000×6
研修会開催費	800,000	624,678	175,322	11/14・15 於桜美林大学
運営委員会費	100,000	78,266	21,734	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	154,770	5,230	年3回開催 第1回 5/17 於専修大学 第2回 11/8 於東京都市大学 第3回(臨時) 3/14 於桜美林大学
分科会助成金	560,000	480,000	80,000	基本助成: 210,000円 (30,000円 × (6研究分科会+1研修分科会) 割増助成正会員: 270,000円 (5,000 × 54名)
特別助成金	400,000	400,000	0	研修分科会支援金(400,000円)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	0	50,000	
印刷費	350,000	265,440	84,560	研究部報告書:500部 封筒:3,000枚
通信費	100,000	102,065	△ 2,065	研修会案内通知、報告大会案内通知、新規研究分科会会員募集他
運営事務費	100,000	50,576	49,424	USBメモリ・ファイル・印刷用紙等
予備費	2,761,678	0	2,761,678	
小計	5,981,678	2,388,333	3,593,345	
次年度繰越金	0	7,048,282	△ 7,048,282	
合計	5,981,678	9,436,615	△ 3,454,937	

2013年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

2014年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

専修大学図書館



監査報告書

2013年度に係る決算報告書及び付属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

2014年4月9日

東地区部会監事校

立教大学図書館



2014年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活動計画（案）
（2014年4月1日～2015年3月31日）

1. 研究部活動方針

- (1) 研究活動
- (2) 研修活動
- (3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

(1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けて検討を開始する。
年8回程度開催。

(2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議する。
2014年5月、11月の年2回開催。

(3) 研究講演会及び研究会

1) 「研究講演会」の開催。

2014年6月部会総会・館長会終了後に開催。於：成蹊大学

2) 「交流会」（研究分科会参加者の相互交流）の開催。

2014年11月または12月開催予定。会場未定。

(4) 研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年8回程度開催。

(5) 研修会

2014年10月下旬予定。会場未定。

(6) 研究分科会

7研究分科会が、各研究主題に沿って月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

①分類研究分科会

⑤和漢古典籍研究分科会

②パブリック・サービス研究分科会

⑥逐次刊行物研究分科会

③西洋古版本研究分科会

⑦レファレンス研究分科会

④企画広報研究分科会

(7) 研修分科会（単年度活動）

(8) 研究部報告書

2013年度の研究部の活動記録を発行する。2014年6月予定。

以上

2014年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

予 算 (案)

2014年4月1日～2015年3月31日

収入の部

単位:円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,447,900	2,447,900	0	@13,000円 × 0.7 × 269校
研修会参加費収入	70,000	210,000	△ 140,000	意見交換会参加費:@1,000円 @1,000円 × 70 名
研究会参加費収入	50,000	0	50,000	交流会の意見交換会参加費:@1,000円 @1,000円 × 50 名
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息
小 計	2,568,900	2,658,900	△ 90,000	
前年度繰越金	7,048,282	3,322,778	3,725,504	2012/2013分科会残金回収3,473,318円
合 計	9,617,182	5,981,678	3,635,504	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	500,000	0	「交流会」(研究分科会参加者の相互交流)の開催
研修会開催費	800,000	800,000	0	年1回開催
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	160,000	0	年2回開催(5・11月)
分科会助成金	570,000	560,000	10,000	基本助成: 270,000 円 30,000×(8研究分科会+1研修分科会) 割増助成正会員: 300,000 円 (5,000 × 60 名)
特別助成金	1,300,000	400,000	900,000	研究分科会支援金(800,000円) 研修分科会支援金(500,000円)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動(運営委員会・研修委員会含む)
印 刷 費	350,000	350,000	0	研究部報告書:500部
通 信 費	100,000	100,000	0	研修会案内通知、交流会案内通知、研修分科会会員募集、会員決定通知発送
運営事務費	50,000	100,000	△ 50,000	研究部担当理事校2年目のため減額
予 備 費	5,537,182	2,761,678	2,775,504	
小 計	9,617,182	5,981,678	3,635,504	
次年度繰越金	0	0	0	
合 計	9,617,182	5,981,678	3,635,504	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)
(2000 年 6 月 9 日 改訂)
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名
(東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名)

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する者若干名をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

- 第10条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第11条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第12条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第13条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第14条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第15条 研究分科会代表者は、毎年2回（5月・11月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第16条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日 制定)

(平成 2年4月 1日 改正)

(平成 8年3月28日 改正)

第1条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第2条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は6名の委員をもって構成し、うち1名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第6条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第8条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第9条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第11条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する。